

総合政策学部

総合政策学科 科目一覧

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
必修科目						
11101	文明論概論	春 学 期	2	1	野 田 宣 雄	
11105	総合政策入門	春 学 期	2	1	田 中 恭 子	
11106	総合政策入門	秋 学 期	2	1	深 井 慈 子	
11111 } 11134	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	通 年	各 4	3	田 中 恭 子 深 井 慈 子 橋 本 日出男 大 津 誠 小 林 武 吉 川 洋 目 崎 茂 松 倉 耕 村 松 久 亀 井 孝 LIM Robyn J. 浜 名 優 藤 原 道 CAVALLAR Osvaldo 江 田 信 須 藤 季 BREMER Marc 松 戸 武 若 井 隆 VOLPE Angelina 加 藤 尚 高 橋 史 藤 本 潔 POTTER David M.	
11141 } 11166	総合政策プロジェクト研究Ⅱ		各 4	4		本年度不開講
選択分野別必修科目						
11171 } 11174	総合政策外国文献講読Ⅰ(英語)	春 学 期	各 2	3	大 津 誠 BREMER Marc MUNCADA Felipe 野 口 博 史	
11175	総合政策外国文献講読Ⅰ(フランス語)	春 学 期	2	3	浜 名 優 美	
11176	総合政策外国文献講読Ⅰ(スペイン語)	春 学 期	2	3	浅 香 幸 枝	
11177 11178	総合政策外国文献講読Ⅰ(中国語)	春 学 期	各 2	3	原 田 直 枝 王 岩	
11181 } 11184	統計解析	秋 学 期	各 2	2	伏 見 正 則 安 藤 雅 和	
11186	コンピュータプレゼンテーション	春 学 期	2	3	鈴 木 敦 夫 佐 々 木 美 裕	
11187	コンピュータプレゼンテーション	秋 学 期	2	3	石 崎 文 雄	
11191 11192	総合政策数量的アプローチ	春 学 期	各 2	3	村 松 久 良 光 高 橋 潔	

科目コード	授業科目	開講形態	単位	年次	担当者	備考
選択必修科目						
11201	環境学概論	春学期	2	1~2	目崎 茂和	
11203	マクロ経済学	秋学期	2	1~2	村松 久良光	
11205	ミクロ経済学	春学期	2	1~2	加藤 尚史	
11207	産業心理学	秋学期	2	1~2	高橋 潔	
11211	政治学概論	夏期前半	2	1~2	深井 慈子	
11213	経営学	秋学期	2	1~2	大津 誠	
11215	行政学	秋学期	2	1~2	谷 勝宏	
11217	国際関係論	秋学期	2	1~2	須藤 季夫	
11221	社会学概論	春学期	2	1~2	松戸 武彦	
11223	会計学	秋学期	2	1~2	亀井 孝文	
11225 11226	環境生物学	春学期 秋学期	各2	1~2	江田 信豊	
11227	民法	春学期	2	1~2	松倉 耕作	
11231	憲法	春学期	2	1~2	小林 武	
11233	統計学	春学期	2	2	伏見 正則	
11241 11244	総合政策外国文献講読Ⅱ(英語)	秋学期	各2	3	大津 誠 POTTER David M. MUNCADA Felipe 野口 博史	
11245	総合政策外国文献講読Ⅱ(フランス語)	秋学期	2	3	HOLLAND Ronald	
11246	総合政策外国文献講読Ⅱ(スペイン語)	秋学期	2	3	浅香 幸枝	
11247	総合政策外国文献講読Ⅱ(中国語)	秋学期	2	3	梁 曉虹	
11301	近現代史	春学期	2	1~3	川島 正樹	
11311	地域文明論 A (アジア)	秋学期	2	1~3	田中 恭子	
11316	地域文明論 B (アジア)	秋学期	2	1~3	吉川 洋子	
11321	地域文明論 C (ヨーロッパ)	春学期	2	1~3	浜名 優美	
11326	地域文明論 D (ヨーロッパ)	春学期	2	1~3	野田 宣雄 CAVALLAR Osvaldo	
11331	地域文明論 E (アメリカ)	春学期	2	1~3	遅野井 茂雄	
11336	地域文明論 F (アメリカ)	秋学期	2	1~3	浅香 幸枝	
11341	地域文明論 G (アフリカ)	春学期	2	1~3	坂井 信三	
11351	環境と文明	秋学期	2	1~3	目崎 茂和	

総合政策学部 総合政策学科

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単位	年次	担 当 者	備 考
11356	宗教と文明	秋 学 期	2	1～3	VOLPE Angelina	
11361	ジェンダーと文明	春 学 期	2	1～3	藤 本 哲 史	
11366	産業文明論	春 学 期	2	1～3	藤 原 道 夫	
11371	比較社会論	秋 学 期	2	1～3	松 戸 武 彦	
11376	エコシステム論	秋 学 期	2	1～3	藤 本 潔	
11401	総合政策論Ⅰ（現代文明論）	秋 学 期	2	1～2	浜 名 優 美	
11406	総合政策論Ⅰ（現代国家論）	秋 学 期	2	1～2	野 田 宣 雄	
11411	総合政策論Ⅰ（現代企業論）	秋 学 期	2	2	山 本 郁 郎	
11416	総合政策論Ⅰ（公共政策論）	秋 学 期	2	2	加 藤 尚 史	
11421	総合政策論Ⅰ(グローバルガバナンス)	春 学 期	2	2	橋 本 日 出 男	
11426	総合政策論Ⅱ（環境政策論）	秋 学 期	2	2～3	目 崎 茂 和	
11431	総合政策論Ⅱ(国際相互依存論)	春 学 期	2	2～3	須 藤 季 夫	
11436	総合政策論Ⅱ（人的資源論）	春 学 期	2	2～3	藤 原 道 夫	
11441	総合政策論Ⅱ（組織行動論）	秋 学 期	2	2～3	高 橋 潔	
11446	総合政策論Ⅲ(先進国政治の課題)	夏期前半	2	3～4	我 部 政 明	
11451	総合政策論Ⅲ(国際環境と日本)	秋 学 期	2	3～4	木 村 宏 恒	
11456	総合政策論Ⅲ(労働問題と政策)	春 学 期	2	3～4	村 松 久 良 光	
11461	総合政策論Ⅲ(政治構造と社会変動) 1	春 学 期	2	3～4	田 中 恭 子	
11462	総合政策論Ⅲ(政治構造と社会変動) 2	秋 学 期	2	3～4	吉 川 洋 子	
選 択 科 目						
11501	国際社会と法	春 学 期	2	2～4	岡 田 泉 青 木 清	
11503	日本政治論	秋 学 期	2	2～4	荒 木 義 修	
11505	人権政策論	春 学 期	2	2～4	小 林 武	
11507	環境保全論	春 学 期	2	2～4	目 崎 茂 和	
11511	経済政策論	秋 学 期	2	2～4	眞 継 隆	
11513	現代家族と法	秋 学 期	2	2～4	松 倉 耕 作	
11515	国際政治行政論	春 学 期	2	3～4	LIM Robyn J.	
11517	国際貿易論	秋 学 期	2	3～4	山 田 正 次	
11521	国際金融論	秋 学 期	2	3～4	森 川 浩 一 郎	
11523	地域経済論	秋 学 期	2	3～4	橋 本 日 出 男	

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
11525	地域政治変動論	秋 学 期	2	3~4	田 中 恭 子	
11527	都市環境論	春 学 期	2	3~4	加 藤 尚 史	
11531	アジア国際関係論	春 学 期	2	3~4	吉 川 洋 子	
11533	アジア政治論	秋 学 期	2	3~4	木 村 宏 恒	
11535	法政策比較論	春 学 期	2	3~4	松 倉 耕 作	
11537	環境経済学	春 学 期	2	3~4	若 井 隆 司	
11541	地球環境論	春 学 期	2	3~4	藤 本 潔	
11543	アジア移民論	春 学 期	2	3~4	MUNCADA Felipe	
11545	日本経営論	春 学 期	2	3~4	大 津 誠	
11601	政治過程論	春 学 期	2	2~4	深 井 慈 子	
11603	国際開発論	秋 学 期	2	2~4	橋 本 日 出 男	
11605	官僚機構論	秋 学 期	2	2~4	深 井 慈 子	
11607	労働経済論	秋 学 期	2	2~4	村 松 久 良 光	
11611	政治行動論	春 学 期	2	2~4	野 口 博 史	
11613	公会計論	春 学 期	2	2~4	亀 井 孝 文	
11615	国際組織論	春 学 期	2	3~4	LIM Robyn J.	
11617	国際経営戦略論	春 学 期	2	3~4	KHONDAKER Rahman M.	
11621	国際財務論	春 学 期	2	3~4	BREMER Marc	
11623	立法過程論	秋 学 期	2	3~4	松 倉 耕 作	
11625	経営財務論	春 学 期	2	3~4	BREMER Marc	
11627	非営利組織論	春 学 期	2	3~4	POTTER David M.	
11631	地方自治論	秋 学 期	2	3~4	小 林 武	
11633	マーケティング論	夏期後半	2	3~4	中 田 善 啓	
11635	国際戦略論	秋 学 期	2	3~4	LIM Robyn J.	
11637	経済援助論	秋 学 期	2	3~4	POTTER David M.	
11641	監査論	春 学 期	2	3~4	亀 井 孝 文	
11643	経営労務論	秋 学 期	2	3~4	藤 原 道 夫	
11645	開発政治論	秋 学 期	2	3~4	POTTER David M.	
11647	経営分析論	秋 学 期	2	3~4	亀 井 孝 文	

講義概要

総合政策学部

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11101	文明論概論	必	春学期	2	1	野 田 宣 雄
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 ヨーロッパにおける歴史観の展開を概観した上で、シュペングラーやトインビーの文明（あるいは文化）を単位とする歴史観を紹介し、さらにハンティントン「文明の衝突」論にも言及し、現代における文明の意義を考える。

【講義計画】

1. 西欧主導の単一文明
2. 単一文明から複数の文明へ
3. 比較文明の視点
4. アジアの中の日本

【評価方法】 成績は出席状況、筆記試験の成績等を参考にして定める

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11105	総合政策入門	必	春学期	2	1	田 中 恭 子
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 総合政策論は、比較的新しい学問分野であり、基礎というより応用に主眼をおく、学際的な分野である。しかし、基礎を抜きにしては、総合政策論は成り立たない。この授業では、そうした総合政策論の基本的性格を理解させ、政治学、法学、経済学、社会学等の基礎分野とどういう関係にあり、それらをどう参照すべきかを考えさせる。また、総合政策論の初歩的な方法論の構築と、総合政策論の応用の試みにも踏み込んで考察する。

【講義計画】

1. 科目の目的と内容、講義計画
2. 政策科学の起源とその背景——欧米と日本
3. アメリカ型政策科学の発展
4. 政策科学の諸類型
5. 政策決定の基礎概念
6. 政策決定の構成要素
7. 政策決定のモデル（1）
8. 政策決定のモデル（2）
9. 政策過程の諸段階
10. 政策分析の方法と戦略
11. 政策評価の意義と方法
12. 結び：政策科学と民主政治

【評価方法】 学期末の筆記試験

【テキスト】 宮川公男『政策科学入門』東洋経済新報社、1995年。

【そ の 他】 参考書：加藤寛・中村まづる『総合政策学への招待』有斐閣、1994年。
大谷実ほか『総合政策科学入門』成文堂、1998年。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11106	総合政策入門	必	秋学期	2	1	深 井 慈 子
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 総合政策論は、比較的新しい学問分野であり、基礎というより応用に主眼をおく、学際的な分野である。しかし、基礎を抜きにしては、総合政策論は成り立たない。この授業では、そうした総合政策論の基本的性格を理解させ、政治学、法学、経済学、社会学等の基礎分野とどういう関係にあり、それらをどう参照すべきかを考えさせる。また、総合政策論の初歩的な方法論の構築と、総合政策論の応用の試みにも踏み込んで考察する。

【講義計画】

1. 科目の目的と内容、講義計画
2. 政策科学の起源とその背景——欧米と日本
3. アメリカ型政策科学の発展
4. 政策科学の諸類型
5. 政策決定の基礎概念
6. 政策決定の構成要素
7. 政策決定のモデル（1）
8. 政策決定のモデル（2）
9. 政策過程の諸段階
10. 政策分析の方法と戦略
11. 政策評価の意義と方法
12. 結び：政策科学と民主政治

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 宮川公男著 『政策科学入門』 東洋経済新報社

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11111	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	田 中 恭 子
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 調査・研究プロジェクトは、各自の関心にそってテーマを選ぶことから始まるが、テーマの選定には、まず、理論と実証の知識を蓄積し、整理して、各自の関心を明確化し、限られた時間と資源の範囲内で追及可能なテーマを絞りこむ作業が要求される。そこで、本演習においては、東アジア地域研究に関連する専門書の講読、ビデオの鑑賞、それらの内容の討論を通じて、第1に、各自の関心がどこにあるか、その関心を深めていくには、どのようなアプローチが適切かを考え、第2に、大まかなテーマの範囲を決めた段階で、個人研究がよいか、グループ研究がよいかを考えて選択し、最後に、テーマを絞りこんで決定する。

講読する専門書や鑑賞するビデオの選定は、演習参加者の関心に基づき、また、演習の進行にしたがって、随時おこなう。

【評価方法】 口頭報告、討論参加、レポート

【テキスト】 随時提示

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11112	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	深 井 慈 子
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 政治学プロジェクト—持続可能な世界秩序研究—

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 第一段階：地球的問題群の諸相とその関連性を探る
 ①論文集、Global Issues 2001-02を読み、クラスで討論する。
 持続可能な世界秩序について環境・政治・経済・文化など異なる分野から、またグローバルからローカルまで異なるレベルに焦点をあてた多様なモデル・理論が出されている。この段階で、各自、どの分野・レベルから世界秩序の持続可能性にアプローチするかを決める。
 第二段階：持続可能な世界秩序に関する理論・モデル研究・発表
 ②文献調査（読む資料を指定する）およびインターネットを活用して研究・発表・討論する。
 ③全員の研究結果をまとめて持続可能な世界秩序モデルの一覧表を作成する。
 この第二段階において、各自、持続可能な世界秩序に関係する具体的な研究テーマを決め、テーマごとにグループ分けをし、文献調査と実地調査のプランを立てる。
 第三段階：アンケートとインタビューのための質問リスト作成・実施
 どんなモデル・アイデアでも、政策決定に影響をもつ人々の間にそれを支える認識・価値観が共有されて（いわゆる認識共同体が生まれて）始めて実現可能性が出てくる。
 ④政治家・官僚・学者・企業・NGO・マスメディア関係者などいわゆる政策エリートを対象に認識共同体の萌芽が見られるか、どのモデルが有力か、を調べる。
 第四段階：結果分析・各自のモデル構築・発表・討論
 ⑤調査結果の分析、各自のテーマに関連して望ましく実現可能性の高い世界秩序モデルをつくり発表・討論する。
 第五段階：レポート作成・発表・討論・修正とモデル一覧表の修正・順位づけ
 ⑥レポートをまとめ、発表・討論する。
 ⑦討論で指摘された問題点やアイデアを考慮に入れてレポートを書き直す。
 ⑧全員のリサーチ結果の総合⇒世界秩序モデル一覧表の再検討と順位付け

【評価方法】 レポート、プレゼンテーション、討論におけるリーダーシップと参加度などにより、総合的に評価する。

【テキスト】 Robert M. Jackson, ed., *Annual Editions: Global Issues (17th edition) 01/02* (Guilford, Connecticut: Dushkin/McGraw Hill, 2001).
 その他、持続可能な世界秩序に関する参考文献リストを配布する。

【そ の 他】 ①学期開始前に、国際関係論に関する基礎的テキスト（追って指定する）を読みプロジェクト開始に備える；②毎週、その週に得られたプロジェクト関連成果（集めた情報・データなど）を要約・提出する；③発表担当者は、発表の内容を箇条書きにして全員に配る。なお、第三段階でも、文献調査は続ける。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11113	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	橋 本 日 出 男
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 途上国経済

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 このプロジェクト研究では、アジア、アフリカ、中南米など途上国の経済について研究する。途上国の

多くは、貧困、失業、インフレーション、債務、環境問題に悩まされている。まず、途上国にとって何が重要な問題であるかを考え、そして、それを解決するための政策を考える。こうした、問題－政策の関係を簡単なモデルに表現し、コンピューターを使い、最適な政策を導き出していく。

このプロジェクト研究に参加する学生は、途上国の1国を選んで深く研究し、それにもとづいてモデルを作り、コンピューターを使って解き、それをレポートに書きあげる。4年次では、そのレポートの課題をさらに発展させて、卒業要件である論文あるいはペーパーに仕上げる。

【評価方法】 レポート、クラスでの発表・討論および出席状況を総合的に評価する。

【テキスト】 なし。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11114	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	大 津 誠
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】
 第1・2週 Introduction to Strategic Management
 第3・4週 Environmental Analysis
 第5・6週 Organization Mission and Objectives
 第7・8週 Strategy Formulation
 第9・10週 Strategy Formulation (cont'd)
 第11・12週 Strategy Implementation
 第13・14週 Strategic Control
 第15・16週 International Strategic Management
 第17・18週 Social and Ethical Dimension
 第19・20週 Financial Strategy
 第21・22週 Marketing Strategy
 第23・24週 Case Analysis for Strategic Management

【評価方法】
 class participation 30
 case analysis #1 20
 case analysis #2 50

【テキスト】 Samuel C. Certo & J. Paul Peter, *Strategic Management: A Focus on Process*, Irwin

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11115	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	小 林 武
他の科目との関連	「憲法」・「人権政策論」・「地方自治論」と深く関連する。					他学科履修 不可

【副 題】 憲法学（行政法学を含む公法学）の研究——憲法政策、とくに人権政策・地方自治政策を考える——

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 このプロジェクト研究では、憲法の角度から政策に接近する「憲法政策」の中で、とくに、人権政策（人権状況の把握とその実現のための政策）や地方自治政策（地方自治の理論と各自治体における具体的な政策設計）をとりあげ、さらに将来の憲法のありようを考える。
 まず、プロジェクト研究に参加した学生（「ゼミ生」）から、研究テーマの希望をとり、それを考慮してテーマの柱を立てる。進め方は、各自が、それぞれの課題を、文献と資料、また実地調査にもとづいて学

び、それを教室で報告し、討論することが基本となる。それとともに、全員あるいは班で現地に出かけての調査やインタビュー、とくに、瀬戸市をはじめ、自治体との連携をとって訪問することや、人権実現過程の実際を知る目的で、裁判（とくに名古屋地裁）の傍聴などを計画したい。また、ゼミ生の研究テーマの希望を見て、ゼミの中に班をつくることも考えている。

プロジェクト研究は、少人数で、かつ2年間にわたる研究の場であるから、大学教育の柱だといえる。私は、これを大切に、卒業後も集えるような親しい学問共同体にしたいと思っている。そのためには、学生同士、また教授と学生の間に親しい関係をつくることが大切である。勉強とともに、さまざまな親睦と交流の機会を設けたいと思う。

【評価方法】 各人の研究にもとづく報告を中心に、出席などを加味して評価する。

【テキスト】 小林 武著『ようこそ日本国憲法へ』（法学書院）・同『憲法判例史序説』（三省堂）・同『地方自治の憲法学』（晃洋書房）・同『人権保障の憲法論』（晃洋書房）。(それぞれ、「憲法」・「人権政策論」・「地方自治論」・「人間の尊厳（人権論の現在）」の教科書でもある。)

【その他】 生き生きした「ゼミ」にするため、皆さんの協力をお願いしたい。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11116	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	吉 川 洋 子
他の科目との関連	地域文明論B（アジア）、総合政策論Ⅲ					他学科履修 不可

【講義内容】 ゼミナール形式の少人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 1 テーマは途上国の政治学：諸問題と政策—東南アジア、とくにフィリピンを中心に
途上国としての広義の意味の政治問題を対象とする。プロジェクト研究Ⅰ（3年生）ではどんな問題があるのか、これに対してどんな政策がとられているか、の認識力を養うことを目的にする。問題のすべては扱えないので、たとえば①政府の問題（政権の交代と体制崩壊、統治能力と実施能力）②貧困問題、農地改革、森林破壊など③エスニック、共産勢力の反乱 ④政治腐敗などの諸問題から、各自が関心をもって研究する。ほかの東南アジアの国も比較のためにとりあげる。

2 プロジェクト研究Ⅰの進め方：

春学期は学生が2、3名で共同グループをつくり共通の関心のある文献を読み、報告し、討論する方法を基本とする。テキストの輪読し、その間に学生は自己の問題関心を高め、ついで各自の関心に合った個別文献論文を読む。外部のインフォマントの話を聞く機会や外部のシンポジウム、研究会への参加も奨励したい。東南アジア短期旅行やNAP海外語学研修へ参加した学生はその実体験だけに終わることなく内容を深めてほしい。年度末には短い報告の提出を要請する。

【評価方法】 評価はクラスでの出席、報告、討論参加の態度および報告をあわせて総合的に評価する。

【テキスト】 大野拓司・寺田勇文編『現代フィリピンを知るための60章』明石書店
補助テキスト D.スタインバーグ『フィリピンの歴史・文化・社会』明石書店
D.ワーフェル『現代フィリピン社会の政治と社会』明石書店

【その他】 個別論文・文献は必要に応じてsuggestionする。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11117	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	目 崎 茂 和
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 自分ながらの環境政策を考え、行動しよう

【講義内容】 ゼミナール形式の少人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分

のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

- 【講義計画】
- 現場でField worksを体感する。
 - 五感での感性をみがく“氣”を体感する。
 - プレゼンテーション力を高める。
 - 調査力をみがく。観察力・洞察力を深める。
 - 研究とは何かを会得する。
 - 総合政策としての視点をもつために何から始めるか自覚する。

【評価方法】 プレゼンテーションの独創性・創造性・総合性による
フィールドなどでの行動力・実行力による

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11118	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	松 倉 耕 作
他の科目との関連	憲法ゼミナール					他学科履修 不可

【副 題】 民法ゼミ

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 3年次は、基礎的な裁判例を、ゼミ生全員で購読する。
司会者、報告者を事前に決め、実のりある議論となるように努力する。

【評価方法】 出席、授講態度、発言内容、報告態度などを総合判断する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11119	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	村松 久良光
他の科目との関連	マクロ経済学 ミクロ経済学 経済政策論 労働経済論 総合政策論Ⅰ（現代企業論） 総合政策論Ⅱ（人的資本論） 総合政策論Ⅲ（労働問題と政策） 経営労務論					他学科履修 不可

【副 題】 労働経済学：マクロ経済、労働市場と雇用システムの国際比較

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】

- プロジェクト研究テーマの設定理由と内容
今、最も問題になっている若年層の失業問題ひとつとっても、マクロ経済の視点、労働市場の視点、そして企業の雇用システムを総合的に見ていくことが大事である。しかも、日本だけを見るのではなく、米国、ドイツ、スウェーデンなどの先進諸国との比較の視点を持ち、さらに、中国、韓国、東南アジア諸国も視野に入れて研究したい。
- プロジェクト研究の進め方
 - 3年次春学期では、労働市場への接近と最近の実態を学ぶために樋口美雄『雇用と失業の経済学』（日本経済新聞社、2001）を読む。
秋学期は奥林康司他編『現代労務管理の国際比較』（ミネルヴァ書房、2000）を用いて、先進諸国、アジア諸国の雇用システムを学ぶ。
 - 3年次秋学期の後半より、関心のある国を対象に2、3人のチームを編成し、文献、データを収集し、発表、討論を行い、4年次におけるカントリーレポート作成につなげていく。

【評価方法】 授業参加熱心度とレポートの評価。

【テキスト】 樋口美雄『雇用と失業の経済学』（日本経済新聞社、2001）
奥林康司他編『現代労務管理の国際比較』（ミネルヴァ書房、2000）

【その他】 受講者は、外国のうち、1、2カ国を特定し、どういう動機でその国に関して強く関心を持ったか、そして経済、社会、文化など、それに関連した本を読み、自分なりに調べ、その国はどのような経済基盤のもとで、どのような発展状況にあり、現在抱えている問題は何かなどをつかんでいることが望ましい。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11120	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	亀井 孝文
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副題】 公会計制度とその改革に関する研究

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 計画と基本的方針

1. 各種の文献を輪読し、その内容についてあらかじめ発表者1名と討論者2名を決め解説・発表し討論する（発表にさいしては必ず要旨・参考資料を配付すること）。その他の参加者も議論に積極的に参加することは当然である。
2. 毎週それぞれ公会計、公監査、財政問題、公企業、特殊法人等の新聞記事その他雑誌記事等を切り抜き、その内容についてのコメントを作成する。
3. 上記の参考資料を交代で解説・発表し討論する（発表にさいしては必ず要旨・参考資料を配付すること）。
4. 12月に卒業論文のテーマを決定し提出する。
5. 1月に上記テーマについて4章程度の章立てと各章の節に関する論文構想を提出する。
6. 春の合宿において卒業論文の第1章の発表会を行う。場合によっては夏休み中にも合宿を実施する。

【評価方法】 発表内容、討論への参加、提出物によって総合的に評価する。

【テキスト】 K.リューダー著／亀井孝文訳『地方自治体会計の基礎概念』、中央経済社2000年、その他、後日指定する（さらに他の資料については適宜配布する）

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11121	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	LIM Robyn J.
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副題】 East Asian Security in the Post Cold War Era

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】

- 1 East Asia during the Cold War
- 2 The US-Japan alliance during the Cold War
- 3 The 'rise' of China
- 4 Tensions in the Taiwan Strait
- 5 Problems on the Korean peninsula
- 6 The South China Sea issue
- 7 Russia's weakness and its consequences

- 8 The role of ASEAN and APEC
- 9 The US-China relationship
- 10 The future of the US-Japan alliance
- 11 Nuclear weapons and Asian security
- 12 War or peace in East Asia?

【評価方法】 Evaluation will be a series of short reports

【テキスト】 Michael E Brown, Sean M. Lynn-Jones and Steven.
E. Miller, *East Asian Security: An International Security Reader* (Cambridge, MIT Press, 1996)

【その他】 This course will be taught entirely in English

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11122	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	浜名 優美
他の科目との関連						他学科 履修 不可

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 「総合政策プロジェクト研究Ⅰ」の進め方
テーマと方法：
近代の思想・歴史・文明にかかわる三つくらいの領域にまたがるテーマを考えている（ただし学生の関心に従って細部のテーマ設定を行なう予定）。

- a. 近代の文明は人間を幸福にしたのか
18世紀フランスの思想家ジャン＝ジャック・ルソーが提起した「科学技術の進歩が人間の生活を幸福にしたのか」という問題を出発点として、近代を思想の側面から考え直す。
- b. 女性解放思想の歴史
男女平等実現を目指した欧米を中心に17世紀から20世紀の女性解放思想の歴史をたどり直す。
- c. 歴史学の方法
戦後のフランスで「新しい歴史」と名づけられたアナール学派の歴史学を中心に歴史学のさまざまな問題を考える。

方法：
基本的な文献講読から始める。インターネット、視聴覚などあらゆるメディアも利用する。テーマに関連する文献を読んで報告を行ない、議論を行なう。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11123	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	藤原 道夫
他の科目との関連						他学科 履修 不可

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

- 【講義計画】
- オリエンテーション
教員による共通目標の提示と学生個人の個別目標の設定作業開始
 - キャリア目標の暫定的な設定と自己の市場価格の予想
人事労務における「人材像」の定義、「目標管理」による成績評価の合意
 - 「自己分析」、「キャリア志望」をPower Pointで説明。
 - 組織—仕事—個人の関連の確認

- 「実例」の収集作業、「観察項目」の設定打ち合わせ
5. 組織—仕事—個人の関連の確認
中間報告、指導
 6. 組織—仕事—個人の関連の確認
最終報告、レポート提出
 7. 知識のすり合わせ
(ア) 現代企業における組織と仕事
(イ) 「職能資格制度」における「仕事能力発達」図式
 8. 2次のデータ（調査報告書、集計データ）の探索と解析
データの探索。何を分析できるか？ 厚生労働省関連サイト。
 9. 2次のデータ（調査報告書、集計データ）の探索と解析
課題の設定とレポートの構成決定
 10. 2次のデータ（調査報告書、集計データ）の探索と解析
 11. キー・コンセプトと方法論（メソドロギー）
～政策科学とは何か～
=====秋学期=====
 1. フィードバック 目標設定の改訂 プロジェクトの提示
 2. 「プロジェクト」のグルーピング作業と「プロジェクト」内部での「役割分担」
 3. 知識のすり合わせ（日本の企業が過去に課題としてきた事柄）
 4. 現代日本企業の課題は何か？（経営戦略と「人事労務に関する」戦略）
 5. 企業の「コアコンピタンス」と「人と仕事」
 6. 「観察対象」の決定、「視点」の設定
 7. 結果の中間報告
 8. キー・コンセプトの確認
 9. 最終報告

【評価方法】 出席、討論への参加度、宿題、レポートを総合して評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11124	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	CAVALLAR Osvaldo
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 (社会学) 中世期（又は近代）の法学と社会
中世期を出発点にして、法典化時代（国家の成立）に至るまで社会と法律との相互関係を廻る

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 次のテーマが研究対象と成る：

- 1) 中世期大学の起源：ボロニャ大学のモデル（ラ語 *universitas studentium*）を中心に
- 2) 欧州社会に於ける法学者（又は弁護士）の位置、法学者の助言の制度（ラ語 *responsa*）
- 3) 家族制度、特に女性と嫁資制度（ローマ法の *dos*）
- 4) 市民権の歴史、特に女性とユダヤ人の市民権
- 5) 政権の制限：Medieval Constitutional Thought
- 6) 教会法に於ける裁判の手続きの発展：法の適性な手続き（英語 *due process*）の成立
- 7) 武器の携行：欧州法制史に於ける武器禁止
- 8) Interdisciplinary研究の発展と歴史：a) 法医学の例、b) 河川の問題：増地や新生地の分別
- 9) “Gender and Trans-gender” ジェンダーとアイデンティティの問題

【評価方法】 出席、研究発表、小論文（又はプレゼンテーション）の内容

【テキスト】 テキストと文献：O. Cavallar, J. Kirshner, *Medieval Legal Texts in Translation*.
M. Lupoi, *The Origins of the European Legal Order*, Cambridge 1999.
K. Pennington, *The Prince and the Law. Sovereignty and Rights in the Western Legal Tradition*, Berkeley 1993.
M. Bellomo, *The Common Legal Past of Europe: 1000-1800*, Washington, D.C. 1995.
R. H. Helmholz, *The Spirit of Classical Canon Law*, Athens and London 1966.
J. A. Brundage, *Law, Sex, and Christian Society in Medieval Europe*, Chicago 1987.
B. Tierney, *Religion, Law, and the Growth of Constitutional Thought: 1150-1650*, Cambridge 1982.

【そ の 他】 論文の出版を目指す
英語参考文献が多いので英語の読解力が必要である

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11125	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	江 田 信 豊
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 環境人間生物学
「地域社会が抱える環境問題の多角的解析」

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容
環境生物学研究室の特色として、学生全員に野外実習や生物学的実験を体験させ、生物学と人間社会の関わりについて理解させる。
愛知万博の掲げる「自然と人間の共生」については、シロアリに見られる共生関係の観察実験により共生の持つ意味を理解させる。また、ゴミ問題では実際に藤前干潟などに行き干潟の持つ重要性とゴミ処理の問題が直面する現状について考えさせる。その過程で実験・調査による基礎データの収集とそれに関連する文献の検索及び正確な読み方を習得させる。最終段階では現実起こっている社会問題の解析へと発展させる。この時取り上げる社会問題やテーマの内容と地域は学生と相談の上決定する。1つの例をあげると大量の産業廃棄物不法投棄の問題を抱える香川県豊島（てしま）をその地域とした場合、たとえば、環境指標としての生物に興味のある学生は生物相の調査を行う。また、風評被害や意見の違いによる住民の心理学的問題に興味のある学生は、住民との対話や聞き取り調査を行う。さらに、豊島が受けた経済的打撃や今後投入される産業廃棄物処理費用に興味のある学生は経済的視点を持つ調査を行う。これらの調査結果を全学生に共有させた上でディスカッションを行わせ、豊島という地域社会が抱える問題を多面から解析する。その様な地域問題（及びテーマ）はそのつどその年の学生と相談した上でその学年の学生に最も適したテーマと地域を考えていく。
総合政策プロジェクト研究Ⅰでは以上のような過程の中で学生間での情報・知識の共有と、それを基にした総合的解析の手法の習得を目指す。

2. プロジェクト研究の進め方

年間で各学生にそれぞれテーマを決めさせ年間計画を立てる。そのテーマに沿って関係の論文や雑誌を正確に読み取らせ、文章から得た知識を正確に表現できる訓練を行う。また、教室全体でそのテーマに関係する実験を行い、生命活動の生物学的な意味を理解させる。その後、各学生にその成果や途中経過を発表させ教室に所属する学生に知識の共有性を持たせる。また、学生全員で野外実習に行きその地域の自然環境を通じて、文化や人間性がどのように構築されたのかを実際に触れるフィールドワークを行う。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11126	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	須 藤 季 夫
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 本プロジェクト研究では、方法論として政策志向の卒業論文を作成し、論理的思考力とプレゼンテーション能力を高めることを目指すことになる。そのため、3年次はディベート技術を学習しながら、国際関係論と東南アジア地域研究の基本的な文献を読みこなしていく。プレゼンテーション能力を高めるうえで、ゼミ形式の発表・討論を行い、1年間で各自の興味ある卒業論文テーマを決定する。

【評価方法】 レポート

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11127	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	BREMER Marc
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】Financial Management of Corporations
Financial Management of Not-for-Profit Organizations
Personal Finance

【評価方法】Attendance/Class Participation 50% and Report 50%

【テキスト】Brealey, Richard A., and Stuart C. Myers, *Principles of Corporate Finance*, New York: McGraw-Hill

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11128	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	松戸 武彦
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】前期は、基本的文献の講読に当てる。文献を基礎にして討論を進める。
中期は、社会調査の技法を実際の場面を通して学ぶ。
後期は、卒業研究を念頭に置いた各人のテーマの発表に当てたい。

【評価方法】出席、授業への貢献度、レポート

【テキスト】講義時に指示

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
11129	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	若 井 隆 司	
他の科目との関連	経済と環境に関連する科目					他学科履修	不可

【副 題】現在、わが国で起こっている環境問題や酸性雨、地球温暖化などの地球環境問題を取り上げ、有効な環境政策手段のあり方を検討する。

【講義内容】ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】グループを作り、各グループごとにテーマを決めて研究し、発表と討議を行う。年度末に、各自に修了論文を提出してもらう。

【評価方法】出席状況、発表の内容および学年末の修了論文等から総合評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11130	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	VOLPE Angelina
他の科目との関連	キリスト教概論 宗教と文明 宗教論					他学科履修 不可

【副 題】 『希望』の文化の建設

【講義内容】 ゼミナール形式の少人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 21世紀は、想像のつかない苦難と約束と共に始まった。これはチャレンジの時代である。そこで人間の理性と個人の存在は、野蛮で暴力的な叫びと神秘的な美への懐しい叫びの間で迷っている。「神秘的な美への懐しさ」を、哲学、文学、映画を用いながら調べる。そして『希望』を柱としたヒューマニズムを考える。

1. シャルルベギー「希望の賛歌」（人生のドラマと希望）の朗読
2. 同 上
3. 学生の実験発表
4. 同 上
5. アラン・ボンバル「実験漂流記」（生きるための希望）の朗読
6. 同 上
7. 学生の実験発表
8. 同 上
9. グレアム・グリーン作品の分析による「暗やみの中の希望」
10. 同 上
11. 学生の実験発表
12. 同 上

【評価方法】 定期的レポートと発表、
最終的なレポートによる。

【テキスト】 なし

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11131	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	加藤 尚史
他の科目との関連	ミクロ経済学、統計解析					他学科履修 不可

【副 題】 都市と地域、労働と環境の実証分析

【講義内容】 ゼミナール形式の少人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 都市や地域、労働や環境にかかわる問題は、身近なものであるがゆえに、関心を集めやすい。それらについて、データを分析することで、解決のための政策を考えるというを目指す。プロジェクト研究Ⅰにおいては、データの分析に必要な方法論とソフトウェアを知るために、テキストの輪読などを行う。

【評価方法】 レポートや出席状況などに基づいて評価する。

【テキスト】 開講時に示す。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11132	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	高 橋 潔
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 豊田市中心市街地活性化プロジェクト

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 大学主導の活動やイベントを2003年に豊田市で実施するという目標に向けて、3年次のプロジェクト研究ではさまざまな準備活動を行います。
授業時間内では、新しいアイデアの発想や、グループでの討議と打合せを中心に行います。2002年秋に対外的な企画プレゼンテーションを行う予定ですので、それに向けたプレゼンテーション資料作成や発表準備などの活動に時間を充てます。

【評価方法】 出席 40%
プレゼンテーション 20%
報告書・レポート 40%

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11133	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	藤 本 潔
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 環境地理学—地域特性を考慮した環境保全策の構築を目指して—

【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。

【講義計画】 3年次春学期～秋学期前半：地域環境特性把握のための基礎的方法論の習得
文献講読：関連学会誌から各自論文を選択し、その内容を要約・発表する。
室内実習：地形図判読、空中写真判読、GIS（地理情報システム）実習など
野外実習：授業時間帯を利用して前後期にそれぞれ1回程度、夏休みまたは春休みに数日間（宿泊を伴う）行なう。
3年次秋学期後半：プロジェクト研究（卒論）テーマの構想発表

【評価方法】 出席、受講態度、積極性、発表内容等から総合的に評価する。

【テキスト】 なし

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11134	総合政策プロジェクト研究Ⅰ	必	通年	4	3	POTTER David M.
他の科目との関連	経済援助論					他学科履修 不可

【副 題】 ODAとNGO

- 【講義内容】 ゼミナール形式の小人数教育で専門領域について理解を深める。各学生が専門領域を深めながら、自分のプロジェクト（テーマ）とする問題を発見するのを手助けし、また問題解決のために必要な知識・理論・データ・手法についてはゼミナールの共通のプロジェクトとして設定し指導する。
- 【講義計画】 ODAとNGOとの関係を研究する。ダイレクトリー・インターネット研究によって、NGOデータベースを造成する。
 1. ODAの定義と特色
 2. NGOの定義と特色
 3. ODAにおけるNGOのイメージ
 4. ダイレクトリー研究：NGOの現実
 5. インターネット研究
 6. データベース造成
- 【評価方法】 ゼミナール発表とデータベース造成への貢献を総合して評価する。
- 【テキスト】 Paula Hoy, *Players and Issues in International Aid*. 他
- 【その他】 3年次に「経済援助論」を同時にとる事がのぞましい。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11171	総合政策外国文献講読Ⅰ（英語）	選必	春学期	2	3	大 津 誠
他の科目との関連						他学科履修 不可

- 【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読み、専門分野に関する知識をいかに外国語を使用して収集すればよいのかを学習する。
- 【講義計画】 このクラスでは英文によるビジネス記事を読解する。毎週、約10名の学生に各々2～3パラグラフを割り当て、日本語で要約してもらう。
- 【評価方法】 中間テスト 40
 定期試験 60
- 【テキスト】 テキストは使用せず *International Herald Tribune*, *Business Week* 等の記事を教材とする。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11172	総合政策外国文献講読Ⅰ（英語）	選必	春学期	2	3	BREMER Marc
他の科目との関連						他学科履修 不可

- 【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読み、専門分野に関する知識をいかに外国語を使用して収集すればよいのかを学習する。
- 【講義計画】 What is a Business?
 The Emergence of Management
 The Dimensions of Management
 Performance in Service Institutions
 Management by Objectives
 Management Communications
 The Multinational Corporation
- 【評価方法】 Attendance/Class Participation 75% and Report 25%
- 【テキスト】 Peter F. Drucker, *Management: Tasks, Responsibilities and Practices*, Harper and Row.

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11173	総合政策外国文献講読Ⅰ（英語）	選必	春学期	2	3	MUNCADA Felipe
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読み、専門分野に関する知識をいかに外国語を使用して収集すればよいのかを学習する。

【講義計画】 Reading materials include topics from environmental concerns to migration issues. Students choose their own articles and report them to class. Other class members participate through questions and suggestions on issues presented by the article.

【評価方法】 Grades are based on attendance, class participation and reports.

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11174	総合政策外国文献講読Ⅰ（英語）	選必	春学期	2	3	野口 博史
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 比較政治文献を読む

【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読み、専門分野に関する知識をいかに外国語を使用して収集すればよいのかを学習する。

【講義計画】

第1週	授業の説明と序論
第2週	What is Politics? Describing Influence (pp.1-26.)
第3週	Interpreting Influence; Explaining and Appraising Influence (pp.27-48.)
第4週	Political Systems: Similarities; Political Systems: Differences (pp.49-70.)
第5週	Differences; Polyarchies and Nonpolyarchies (pp.71-94.)
第6週	Political Men and Women (pp.95-117.)
第7週	Political Evaluation; Choosing Policies (pp.118-143.)
第8週	関連論文講読
第9週	関連論文講読
第10週	関連論文講読
第11週	関連論文講読
第12週	総合討論

【評価方法】 授業出席と報告・討論への参加、中間・期末レポートによる総合評価

【テキスト】 Robert A. Dahl, Modern Political Analysis Fifth Edition (Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall, 1991), xii + 157pp.

【そ の 他】 講読する関連論文は中間レポートで提案された中から第7週までに選択される。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11175	総合政策外国文献講読Ⅰ（フランス語）	選必	春学期	2	3	浜名 優美
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読み、専門分野に関する知識をいかに

外国語を使用して収集すればよいのかを学習する。

- 【講義計画】 フランスの政治、経済、社会を理解する新聞記事を読む。時々、インターネットによる情報収集を行なう。
主な話題——グローバリゼーション、コンコルド、電気のない生活、革命記念日、死刑廃止、グランド・ゼゴール、若者の暴力、犯罪
- 【評価方法】 ふだんの授業参加および学期末試験。
- 【テキスト】 クリスチャン・ボームルー、長谷川公昭編『時事フランス語』2002年度版、朝日出版社
- 【その他】 欠席過多適用。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11176	総合政策外国文献講読Ⅰ（スペイン語）	選必	春学期	2	3	浅香 幸枝
他の科目との関連	スペイン語Ⅰ・Ⅱの履修が必要。					他学科履修 不可

- 【副題】 多民族社会を考える
- 【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読み、専門分野に関する知識をいかに外国語を使用して収集すればよいのかを学習する。
- 【講義計画】 1. 授業の説明と展望
2. ラテンアメリカ先住民の世界
3. スペインの征服と植民地時代
4. 奴隷制の廃止と新移民のもたらした変化
5. 多民族社会を考える
6. まとめ
- 【評価方法】 出席状況、および授業への参加度、小テスト、レポートの総合評定。
- 【テキスト】 プリント配布

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11177	総合政策外国文献講読Ⅰ 1（中国語）	選必	春学期	各2	3	原田 直枝
他の科目との関連						他学科履修 不可

- 【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読み、専門分野に関する知識をいかに外国語を使用して収集すればよいのかを学習する。
- 【講義計画】 現代の政治、経済、文化など諸方面において感心を集めている主要なトピックについて、中国の事情・日本の事情それぞれに関する情報を伝える中国語文献を読解する。その作業を通じて、中国の諸事情について理解を深めるとともに、日本の諸状況を中国語によって説明する実践を重ねることによって、中国語運用能力の増進をめざす。特に、学期中に2度予定している討論では、中国語による口頭表現を試みるので、各自事前の準備を心がけておくこと。
- 第1回 文献に関する概説、講義の方針についての周知
第2～6回 文献講読
第7回 諸トピックに関する討論（1）
第8～11回 文献講読
第12回 諸トピックに関する討論（2）
- 【評価方法】 授業時における平常点、および、第7、12回授業時に行う討論の内容、期末に行う定期試験の結果の3

通りを同等に重視して、総合的評価を行う。

【テキスト】 村松恵子他著『中国と日本』（白帝社）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11178	総合政策外国文献講読Ⅰ 2（中国語）	選必	春学期	2	3	王 岩
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読み、専門分野に関する知識をいかに外国語を使用して収集すればよいのかを学習する。

【講義計画】 現代中国における政治、経済、文化などに関する情報を伝える、まとまった分量の中国語文献を読解する。その作業を通じて、中国の諸事情について理解を深めるとともに、中国語での簡単な発言なども積極的に交えることによって、中国語運用能力の増進をめざす。特に、現代中国に関する討論では、中国語による口頭表現を試みるので、各自事前の準備を心がけておくこと。

第1回 文献に関する概説、講義の方針についての周知
 第2～6回 文献講読
 第7回 現代中国に関する討論（1）
 第8～11回 文献講読
 第12回 現代中国に関する討論（2）

【評価方法】 授業時における平常点、および、第7、12回授業時に行う討論の内容、期末に行う定期試験の結果の3通りを同等に重視して、総合的評価を行う。

【テキスト】 三瀧正道・陳祖復『時事中国語の教科書』（朝日出版社）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11181 ） 11184	統計解析	選必	秋学期	2	2	伏見 正則 安藤 雅和
他の科目との関連	「統計学」の履習を前提とする。					履修対象学科 不可

【講義内容】 「統計学」の学習を前提として、標本に基づく推測統計学について解説する。推測統計学の基礎理論の手法と応用について理解することを目的とする。また、統計ソフトウェアを使用して、実際に確かめることの重要性を理解する。

【講義計画】 1. 統計的推定
 2. 統計的検定
 3. 回帰分析
 4. 統計ソフトウェア（SPSS）の使用方法
 5. 各種データの解析

【評価方法】 出欠、レポート、筆記試験の結果等を総合的に評価する。

【テキスト】 開講時に指示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11186	コンピュータプレゼンテーション	選必	春学期	2	3	鈴木 敦夫 佐々木 美裕
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 近年、コンピュータやインターネットを利用した双方向の資料提示が行われるようになり、様々な場面で活用されるようになっている。ビジュアルな資料は理解の促進に欠かせないものである。本講義では、コンピュータを利用したマルチメディア文書作成について学ぶ。

【講義計画】

1. 授業全体の説明（授業計画等）
2. 文章の書き方＋プレゼンテーションの構成方法について講義(1)
3. 文章の書き方＋プレゼンテーションの構成方法について講義(2)
4. 文章の書き方＋プレゼンテーションの構成方法について講義(3)
5. 自由課題でパワーポイント作成&プレゼン準備(1)
6. 自由課題でパワーポイント作成&プレゼン準備(2)
7. 発表&ディスカッション
8. 発表&ディスカッション
9. 自由課題でパワーポイント作成&プレゼン準備(1)
10. 自由課題でパワーポイント作成&プレゼン準備(2)
11. 発表&ディスカッション
12. 発表&ディスカッション

【評価方法】 学期末の試験のよる

【テキスト】 未 定

【そ の 他】 授業を受けるためには、パワーポイントの基礎的な知識とインタラクティブな授業に参加するための積極的な態度が必要です。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11187	コンピュータプレゼンテーション	選必	秋学期	2	3	石 崎 文 雄
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 近年、コンピュータやインターネットを利用した双方向の資料提示が行われるようになり、様々な場面で活用されるようになっている。ビジュアルな資料は理解の促進に欠かせないものである。本講義では、コンピュータを利用したマルチメディア文書作成について学ぶ。

【講義計画】

1. 授業全体の説明（授業計画等）
2. 文章の書き方＋プレゼンテーションの構成方法について講義
3. 自由課題でパワーポイント作成&プレゼンテーション準備(1)
4. 自由課題でパワーポイント作成&プレゼンテーション準備(2)
5. 自由課題でパワーポイント作成&プレゼンテーション準備(3)
6. 発表&ディスカッション
7. 発表&ディスカッション
8. 自由課題でパワーポイント作成&プレゼンテーション準備(1)
9. 自由課題でパワーポイント作成&プレゼンテーション準備(2)
10. 自由課題でパワーポイント作成&プレゼンテーション準備(3)
11. 発表&ディスカッション
12. 発表&ディスカッション

【評価方法】 発表およびディスカッションの評価により成績評価を行う。

【そ の 他】 授業を受けるためには、パワーポイントの基礎的な知識とインタラクティブな授業に参加するための積極的な態度が必要です。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11191	総合政策数量的アプローチ 1	選必	春学期	2	3	村松 久良光
他の科目との関連	統計学と統計解析の履修が前提。マクロ経済学 経済政策論 労働経済論					他学科履修 不可

【講義内容】 主として労働経済関係の統計資料や質問紙調査で得た数量的データを材料にして、仮説を設定し、コンピュータを用いて集計、整理、加工し、表またはグラフにまとめ、意味のある結果を発見し、それをレポートに仕上げる。データ分析には、統計パッケージを用い、記述統計、クロス表の作成、回帰分析の初歩を習得させる。

【講義計画】 ノートPCに入っているExcelの分析ツールを活用し、経済、経営、労働関係の数量的データを分析する技術を身に付けるべく、順を追って説明し、実習する。

1. Excelの基本の説明
2. 経済、経営データの取得方法と入力
3. データの基本統計量の算出と意味
4. 相関係数、回帰分析

【評価方法】 授業参加の熱心度とレポートの評価。

【テキスト】 竹田 聡 『Excelによる経済データ分析』（東京図書、2001、2500円＋税）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11192	総合政策数量的アプローチ 2	選必	春学期	2	3	高 橋 潔
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 主として労働経済関係の統計資料や質問紙調査で得た数量的データを材料にして、仮説を設定し、コンピュータを用いて集計、整理、加工し、表またはグラフにまとめ、意味のある結果を発見し、それをレポートに仕上げる。データ分析には、統計パッケージを用い、記述統計、クロス表の作成、回帰分析の初歩を習得させる。

- 【講義計画】
- 1 実習展望
 - 2 調査と実験
 - 3 データ収集
 - 4 データの入力
 - 5 単純集計・平均・分散
 - 6 分散とは何か（分布の概念）
 - 7 t検定
 - 8 統計的検定とは何か（仮説の検証と反証）
 - 9 相関係数
 - 10 相関とは何か（2者間の関係性の強さ）
 - 11 分散分析
 - 12 回帰分析

【評価方法】

課題	40%
レポート	40%
出席	20%

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11201	環境学概論	選必	春学期	2	1・2	目 崎 茂 和
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 Only One Earth かけがえのない環境をいかに愛せるか

【講義内容】 本講義では、地球環境に関する基本的な理解の修得を水圏の観点から目指すべく、日本の海域を始め東アジア全般の風土を例にとりあげながら、自然・生物圏の形成・進化・変動などの基礎理論を中心に学習する。さらに、環境に対する人間の思想や自然観、また環境問題への具体的対応について検討する。

【講義計画】 (Ⅰ) 環境学をなぜ学ぶのか
 ●楽しい環境学、役立つ環境学はあるのか
 ●私的な環境を見つめ直そう
 (Ⅱ) 地球人になるための環境学
 ●地球環境の成り立ち。
 ●地球環境問題の行方
 (Ⅲ) 生々した環境を
 ●エコライフと環境政策

【評価方法】 レポート、発表、テストなどによる。

【テキスト】 目崎茂和 (1998)『図説 風水学』(東京書籍、¥1500+α)

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11203	マクロ経済学	選必	秋学期	2	1・2	村松 久良光
他の科目との関連	ミクロ経済学、労働経済論、総合政策論Ⅲ (労働問題と政策) 国際貿易論、国際金融論					他学科履修可

【講義内容】 マクロ経済学では、生産活動を営む企業部門と消費活動を営む家計部門、公共財の提供と政策を司る政府部門、そして海外部門の4つの部門から一国の経済が構成されると捉える。そして、主体の行動を分析し、その相互作用から総体としての産出量であるGDPの決定メカニズムを説明し、失業、インフレの発生とその制御のための政府の基本的な政策、マクロ経済における金融の役割、貿易、為替レートの効果などを学ぶ。これを学ぶことによって経済学の視点から総合的な政策立案の基礎的な枠組を修得する。

【講義計画】 下記のテキストにしたがって講義をし、東アジアの経済危機と再生をトピックスとする。

- | | | |
|------|-------------------|-------------------|
| 第1回 | 自動車産業と経済学 (第1章) | |
| | 1 自動車産業：その簡単な歴史 | 2 経済学とは何か |
| 第2回 | 3 混合経済における市場と政府 | 4 ミクロ経済学とマクロ経済学 |
| | 5 科学としての経済学 | 6 なぜ経済学者の意見は異なるのか |
| 第3回 | マクロ経済学と完全雇用 (第8章) | |
| | 1 マクロ経済活動の目的と測定 | 2 経済成長 |
| 第4回 | 3 失業 | 4 インフレーション |
| 第5回 | 5 基本的マクロモデル | 6 労働市場 |
| | 7 生産物市場 | |
| 第6回 | 8 資本市場 | 9 一般均衡 |
| 第7回 | 10 基本的完全雇用モデルの拡張 | |
| | 経済成長 (第9章) | |
| | 1 成長の基礎要因 | 2 生産性 |
| 第8回 | 3 東アジアの奇跡と生産性 | |
| 第9回 | 失業と総需要 (第10章) | |
| | 2 経済不況：概説 | 3 総需要の決定要因 |
| 第10回 | 4 消費 | 5 投資 |
| 第11回 | 6 政府と貿易 | 8 総需要の再生 |
| 第12回 | 東アジアの経済危機と再生 | |

【評価方法】 ・講義への参加熱心度と定期試験の結果から評価する。

- 【テキスト】 ジョセフ・E／スティグリッツ著『スティグリッツ入門経済学第2版』（東洋経済新報社、1999.4）著者は、世界で最も著名な理論経済学者であり、同時に世界銀行上級副総裁として実際の政策（東アジアの経済）にも関与している意欲的な学者である。講義では、この本の一部しか使わないが、「ミクロ経済学」のテキストとしても使われる予定であり、また、3、4年次になって必要に応じて自習するのに最適な本である。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
11205	ミクロ経済学	選必	春学期	2	1・2	加 藤	尚 史
他の科目との関連	マクロ経済学					他学科履修	可

- 【講義内容】 経済学は、総合的な政策を立案するにあたって有用であり、分析の対象に従ってふたつに分けられる。そのひとつのミクロ経済学においては、経済を構成する個々の主体の行動が扱われる。講義では、ミクロ経済学に関する理論的な解説を加えると同時に、現実的な問題の分析を通してその有用性を示す。

- 【講義計画】
1. 序論
 2. 家計の行動
選好／価格／所得／需要
 3. 企業の行動
技術／収入／費用／供給
 4. 市場の構造
均衡／調整／変化

- 【評価方法】 定期試験と出席状況に基づいて評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者	
11207	産業心理学	選必	秋学期	2	1・2	高 橋	潔
他の科目との関連						他学科履修	可

- 【講義内容】 能力・性格・職務行動などの個人差に関して展開されてきた様々な理論と測定技法を、企業組織における募集・採用・選抜・人材評価などの人事政策に応用するために、心理学の基礎理論と応用研究を展望する。とくに、職務分析・採用・管理職選抜・妥当性・人事考課法・雇用差別などについて、関連する諸研究の知見を紹介する。

- 【講義計画】
- 講義計画
1. 講義展望
 2. 差別とは何か
 3. 知性：個人行動の基礎
 4. 性格的個人差
 5. 採用面接
 6. 人事評価

- 【評価方法】 定期試験による

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11211	政治学概論	選必	夏期前半	2	1・2	深 井 慈 子
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 政治、すなわち公共財及びサービスの生産、分配、消費をめぐる行為と規範と、その理論的、体系的研究としての政治学を理解させるために、「権力」、「正統性」、「自由と平等」、「公益」といった現代政治学の基礎的概念と主要な研究方法を解説する。

【講義計画】

- 1 政治と政治学
政治とは何か
政治学とは何か
- 2 政治と権力
権力と権威
国際政治における権力
- 3 政治とイデオロギー
イデオロギーと政策
ナショナリズム
- 4 集合的選択の政治
集合行為の理論
国際的集合財
- 5 政策過程に関する理論
グループ論
官僚政治論
多元主義・コーポラティズム
エリート論
- 6 政治体制論
政治システム論
国家とは何か
制度とは何か
世界システム

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 大嶽秀夫、鴨武彦、曾根泰教著 『政治学』 有斐閣

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11213	経営学	選必	秋学期	2	1・2	大 津 誠
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 現代社会における企業及び非営利組織の経営活動について考察する。企業等を有機的経営組織体として総合的・体系的に理解することに重点を置き、会計、財務、マーケティング、人事等経営の個別機能について言及し、経営者の役割、経営のグローバル化、日本の経営、経営戦略、組織構造などについても講義する。

【講義計画】

- 第1回 企業と環境
- 第2回 企業の社会的責任
- 第3回 経営者の職能
- 第4回 経営理論（古典的アプローチ）
- 第5回 経営理論（今日のアプローチ）
- 第6回 経営戦略プロセス
- 第7回 経営戦略アプローチ
- 第8回 経営組織
- 第9回 組織再設計
- 第10回 グローバル経営

第11回 日本の経営
第12回 経営の今日的課題

【評価方法】 中間テスト 40
定期試験 60
計 100

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11215	行政学	選必	秋学期	2	1・2	谷 勝 宏
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 現代行政の政治分析

【講義内容】 従来の伝統的な行政学である行政管理論の基本的な概念の説明を行う。さらに、現代の日本の官僚制の分析や、行政機構における政策の形成・執行過程、中央・地方政府間関係、諸外国の行政の実態及びそれとの比較、行政改革の動向や、行政とNPOの関係など、現在の行政・行政学の主要な研究・問題領域についての最近の理論や実態について説明を行う。これらを通じて現実の日本の政治・行政を観察し、分析する方法を身に付けることを目標とする。

【講義計画】 第1回 行政学の枠組み
第2回 行政システムの発展
第3回 現代日本の行政システム
第4回 中央・地方関係と地方自治
第5回 官僚制と政策形成
第6回 行政組織の基礎理論
第7回 組織設計
第8回 組織の管理運営
第9回 公務員制度と人事行政
第10回 政策の実施
第11回 政策評価と行政責任
第12回 行政の新しい展開

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 村松岐夫『行政学教科書』（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11217	国際関係論	選必	秋学期	2	1・2	須 藤 季 夫
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 国際関係の歴史、概念、構造を概観し、政策思考を高める観点から相互依存、対外政策やレジーム・アプローチ等を中心とした基礎知識を習得する。とくに、国際社会が直面する諸問題を歴史的ならびに理論的に考察し、現在の国際社会を体系的に捉える分析枠組みを学習する。

【講義計画】 [1] 国際関係論 (IR) とは何か [10] 第三世界と国際関係
[2] 国際関係の歴史的展開 [11] 国際関係と日本外交
[3] 国際関係の捉え方 (リアリズムとリベラリズム) [12] アジアの勃興と国際関係の挑戦
[4] 国際関係の理論 (世界システム論と政策決定論)
[5] 国際関係の構造 (米国、ロシア、中国)
[6] 冷戦の展開と終焉
[7] 安全保障と地域紛争

- [8] ポスト冷戦と相互依存の世界
[9] グローバリズムとリージョナリズム

【評価方法】 レポートと期末試験

【テキスト】 進藤栄一『現代国際関係学』有斐閣、2001

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11221	社会学概論	選必	春学期	2	1・2	松戸 武彦
他の科目との関連	比較社会論					他学科履修可

【講義内容】 複雑、多岐にわたる社会を理解するために、広範な領域で社会学的知識が求められている。しかし、人間についての諸科学のなかで、社会学に独自の位置を与えるような、中心的概念と視点等を簡単に紹介することは難しい。そこで本講義では、社会学の歴史のなかでこれまで受け継がれ、議論されてきた著名な「命題」を紹介し、それによって社会学の知識を身に付けさせる。

【講義計画】

- 1 社会学の入門の入門、サザエさんとちびまるこ
- 2 産業社会と女性－赤ずきんのテーマ
- 3 マックスヴェーバーと産業調査
- 4 セクシャルハラスメントの社会学－日常的権力の構造化
- 5 学校に行くこと－産業社会のもう一つの特性
- 6 ライフサイクル－貧乏研究の社会政策的意味
- 7 権威主義の諸相
- 8 30代で選別－企業社会で生きること
- 9 社会学の方法入門
- 10 海外進出企業の中の労働者
- 11 再就職
- 12 福祉国家へのアプローチ

【評価方法】 定期試験。授業への参加度（質疑応答）も評価対象とする。

【テキスト】 松戸武彦・高田利武編『変貌するアジアの社会心理』ナカニシヤ出版

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11223	会計学	選必	秋学期	2	1・2	亀井 孝文
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 企業会計を中心に会計行為に関わる基礎的な諸概念および計算書の作成と表示機能等を理論と制度の両面から解説する。また、管理会計の領域や非営利事業の会計を考慮に入れながら、会計の果たす機能を考える。その理論および制度がいまや環境問題を含めて社会的な観点と世界的な観点を必要としていることにも言及し、一般企業と同時に行政においても要請される会計思考を修得させることを目指す。

【講義計画】

導入編

1. 会計の意義と役割
2. 会計の基礎（貸借対照表・損益計算書、会計公準）

簿記編

3. 複式簿記の意義・目的と記帳原則
4. 仕訳帳と元帳
5. 試算表・精算表の作成と財務諸表の誘導
6. 複式簿記問題演習

会計原理論

7. 損益計算の構造
8. 資産の会計

9. 負債・資本の会計
10. 財務諸表の公開と会計制度の発展過程
11. 会計制度の改革（時価主義会計、連結財務諸表、キャッシュフロー計算書、税効果会計等）
12. 会計学の拡大（公会計、環境会計・環境監査）
13. 予備

【評価方法】 学期末の筆記試験による

【テキスト】 神戸大学会計学研究室編『会計学基礎編（最新版）』、同文館 2002年

【その他】 機会あるごとに新聞記事等を配付する。受講者も日常的に企業の財務や会計に関する新聞記事に関心をもつことが望ましい。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11225 11226	環境生物学	選必	春学期 秋学期	各2	1・2	江田 信豊
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 生態系のシステムのなかで、環境評価指標として、最近昆虫類は重要な構成要因と考えられるようになった。本講義では、まず生態学にベースをおいた基礎的な生態系のシステムを習得させ、昆虫類を中心として、都市環境と里山環境の比較を行う。その中で、それぞれの環境における、生物の多様性についての考察を行ってゆく。昆虫の捕獲採集・同定分類を通して、里山環境における生物の多様性を認識させる。さらに講義では昆虫の多様性の歴史と昆虫の持つ環境特性について、観察実験と講義の両面から論じてゆく。

- 【講義計画】
1. 光学顕微鏡の使用
材料：ムクゲの2年茎断面・ツバキの葉の断面
 2. 生命の基本単位、細胞の観察（実験）
タマネギの体細胞分裂の観察
 3. 4 海上の森の動・植物の観察：春学期（学外授業）
伊勢海浜センターにおける干潟の生物の観察：秋学期（学外授業）
 5. 昆虫の多様性と環境指標としての昆虫
 6. 実体顕微鏡の使用
 7. 昆虫の体の仕組み（実験）
モンシロチョウの外部形態について
 8. 昆虫と共生する原生動物の観察（実験）
シロアリと共生する原生動物の観察
 9. 共生の概念
愛知万博と海上の森（人と自然の共生について）
 10. ヒドラの体の仕組み（実験）
単細胞生物と多細胞生物の戦略の相違について
 11. 里山環境の保全
愛知万博について考える（総合レポート）（春学期）
伊勢湾の干潟の生物について考える（総合レポート）（秋学期）

「環境生物学」は実習・実験を主体とする総合政策学部では数少ない科目です。講義では環境について考える時のキーワード、例えば「共生」と言う概念を実習・実験を通じて理解する授業です。理科系の雰囲気また、野外に出たり実験を行ったりすることの好きな学生はぜひ受講してください。

【評価方法】 レポートと出席で総合的に評価する。

【テキスト】 授業中にプリントを配布すると共に参考図書については授業で示す。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11227	民法	選必	春学期	2	1・2	松 倉 耕 作
他の科目との関連	法学、憲法、家族法					他学科履修可

【副 題】 生活に必要な法律知識

【講義内容】 私法の中心である民法のうち、財産法を中心に講義する。扱う領域としては、担保法、契約法、不法行為法などを中心として講義する。また、法律の変遷などに論及することにより、法政策の変化を理解させ、政策・立案の思考を取得できるように講義する。

【講義計画】

- (1) 民法入門
- (2) 不法行為 1 交通事故
- (3) 同 2 犬の事故
- (4) DV法・ストーカー法
- (5) 契約法 消費者保護
- (6) 同 どんな場合に契約は無効となるか
- (7) 担保法 借金する場合の留意点
- (8) 同 家の購入とローンの設定
- (9) 履行の強制
- (10) 裁判外での紛争の解決
- (11) 裁判所による保護（小額訴訟を含む）
- (12) 質問時間、テストについて

【評価方法】 テストの成績と受講態度

【テキスト】 嵯峨野書院・資料で学ぶ財産法2（松倉耕作編）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11231	憲法	選必	春学期	2	1・2	小 林 武
他の科目との関連	「民法」・「人権政策論」・「地方自治論」を受講することが望ましい。					他学科履修可

【副 題】 政策の目でみた憲法学

【講義内容】 わが国の国家・社会の全体にわたる政策を支える憲法について概観する。とくに憲法政策に重点を置き、まず憲法が、現実の立法・行政・司法の各過程を通してどのように実現されているかを論じて、憲法を現実化するための政策を考える。次に、将来の憲法のあり方をめぐって提起される憲法改正の問題をとりあげ、改憲論のこれまでの経緯と現状、そして国と社会の基本法の望ましい姿を考察する。

【講義計画】

ほぼ次の順序で進める。

- 1 開講にあたって。憲法とは何か——憲法と政策
- 2 近代憲法の誕生とあゆみ
- 3 日本の憲法
- 4 日本国憲法の制定過程と基本原理
- 5 国民主権と天皇制のあり方
- 6 平和をつくる——平和政策の試み
- 7 人権——実態と人権確保の政策
- 8 国の機構と政策形成の過程
- 9 司法制度と裁判
- 10 地方政策を地域でつくる
- 11 新憲法への展望
- 12 憲法政策の先にみえるもの。開講のことは

【評価方法】 テスト（筆記試験）による。出席を加味することもある。

【テキスト】 小林 武著『ようこそ日本国憲法へ』（法学書院）

【その他】 毎時間、具体的な憲法問題、つまり憲法政策の日常的な展開の姿を、新聞・TVのニュースをとりあげて話す。そのことをとおして、わかりやすい講義にようにしたい。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11233	統計学	選必	春学期	2	2	伏見 正則
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 統計学の基礎的概念と手法について解説し、統計学的なものの見方と考え方を培う。確率と記述統計について講義する。

【講義計画】

- データの整理（記述統計）
平均、分散、ヒストグラム、散布図、相関係数、など。
- 確率分布
確率、独立性、条件つき確率、二項分布、ポアソン分布、正規分布、など。
- 統計的推論の基礎

【評価方法】 出欠、レポート、筆記試験の結果等を総合的に評価する。

【テキスト】 開講時に指示する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11241	総合政策外国文献講読Ⅱ（英語）	選必	秋学期	2	3	大津 誠
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読むだけでなく、さらにそれについて発表をしたり、簡単なレポートを作成する。

【講義計画】 このクラスでは英文によるビジネス記事を読解する。毎週、約10名の学生に各々2～3パラグラフを割り当て、英語で要約してもらう。授業は可能な限り英語で行う。

【評価方法】 中間テスト 40
定期試験 60

【テキスト】 テキストは使用せず、International Herald Tribune, Business Week等の記事を教材とする。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11242	総合政策外国文献講読Ⅱ（英語）	選必	秋学期	2	3	POTTER David
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読むだけでなく、さらにそれについて発表をしたり、簡単なレポートを作成する。

【評価方法】 発表、レポート、出席を総合して評価する。

【テキスト】 David Potter and Shamima Ahmed, Non-governmental Organizations in International Politics.

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11243	総合政策外国文献講読Ⅱ（英語）	選必	秋学期	2	3	MUNCADA Felipe
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読むだけでなく、さらにそれについて発表をしたり、簡単なレポートを作成する。

【講義計画】 Reading materials include topics from environmental concerns to migration issues. Students choose their own articles and report them to class. Other class members participate through questions and suggestions on issues presented by the article.

【評価方法】 Students' grades are based on class attendance, participation, quizzes and final report.

【テキスト】 Printed materials will be provided as needed.

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11244	総合政策外国文献講読Ⅱ（英語）	選必	秋学期	2	3	野口 博史
他の科目との関連	「総合政策外国文献講読Ⅰ（英語）」（担当者 野口博史）をすでに履修していることが望ましい。					他学科履修 不可

【副 題】 国際政治文献を読む

【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読むだけでなく、さらにそれについて発表をしたり、簡単なレポートを作成する。

【講義計画】
 第1週 授業の説明と序論
 第2週 Introduction ; The First Image (pp.1-41.)
 第3週 Some Implications of the First Image (pp.42-79.)
 第4週 The Second Image (pp.80-123.)
 第5週 Some Implications of the Second Image (pp.124-158.)
 第6週 The Third Image (pp.159-186.)
 第7週 Some Implications of the Third Image ; Conclusion (pp.187-238.)
 第8週 関連論文講読
 第9週 関連論文講読
 第10週 関連論文講読
 第11週 関連論文講読
 第12週 総合討論

【評価方法】 授業出席と報告・討論への参加、宿題、期末レポートによる総合評価

【テキスト】 Kenneth N. Waltz, Man, the State and War : A Theoretical Analysis (New York : Columbia University Press, 1959) vi+263pp.

【そ の 他】 講読する関連論文は中間レポートで提案された中から第7週までに選択される。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11245	総合政策外国文献講読Ⅱ（フランス語）	選必	秋学期	2	3	HOLLAND Raoul
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 Etude de textes en français

【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読むだけでなく、さらにそれについて発表をしたり、簡単なレポートを作成する。

【講義計画】 Ce cours se propose, par la lecture de textes convenables en langue française, d'amener les étudiants à enrichir à la fois leur vocabulaire et leurs connaissances de spécialisation.

【評価方法】 Assiduité, devoirs, contrôles et une épreuve en fin de semestre

【テキスト】 Un manuel à désigner ultérieurement, et textes photocopiés

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11246	総合政策外国文献講読Ⅱ（スペイン語）	選必	秋学期	2	3	浅 香 幸 枝
他の科目との関連	スペイン語Ⅰ・Ⅱの履修が必要。					他学科履修 不可

【副 題】 ラテンアメリカ社会と女性

【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読むだけでなく、さらにそれについて発表をしたり、簡単なレポートを作成する。

【講義計画】 ラテンアメリカ社会を女性政策の視点から比較考察することを目標としている。スペイン語を用いて、専門用語を使いこなし、発表・レポートを書く。

1. 授業の説明と展望
2. アルゼンチン社会と女性
3. メキシコ社会と女性
4. ペルー社会と女性
5. ブラジル社会と女性
6. キューバ社会と女性
7. まとめ

【評価方法】 出席状況、および授業への参加度、小テスト、レポートの総合評定。

【テキスト】 ● 『新しいラテンアメリカ社会と女性』新評論
● スペイン語資料・プリント配布

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11247	総合政策外国文献講読Ⅱ（中国語）	選必	秋学期	2	3	梁 暁 虹
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 これまで習得した外国語を応用し、総合政策に関連のある文献を読むだけでなく、さらにそれについて発表をしたり、簡単なレポートを作成する。

【講義計画】 現代中国における政治、経済、文化などに関する情報を伝える、まとまった分量の中国語文献を読解す

る。その作業を通じて、中国の諸事情について理解を深めるとともに、中国語での簡単な発言なども積極的に交えることによって、中国語運用能力の増進をめざす。特に、現代中国に関する討論では、中国語による口頭表現を試みるので、各自事前の準備を心がけておくこと。

- 第1回 文献に関する概説、講義の方針についての周知
 第2～6回 文献講読
 第7回 現代中国に関する討論（1）
 第8～11回 文献講読
 第12回 現代中国に関する討論（2）

【評価方法】 授業時における平常点、および、第7、12回授業時に行う討論の内容、期末に行う定期試験の結果の3通りを同等に重視して、総合的評価を行う。

【テキスト】 別途指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11301	近現代史	選必	春学期	2	1～3	川 島 正 樹
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 アメリカ合衆国近現代史とアメリカ合衆国が現在直面する大都市の差別と貧困

【講義内容】 常に同時代史としての現代史を意識しつつ、近現代という時代区分の意義を押さえ、近代世界システム論やヨーロッパ中心主義批判論を手がかりに、近現代の出発点の本質的問題性を把握する。とくに、奴隷貿易と奴隷制に注目しながら大西洋貿易システムを通じた英国の覇権の確立と英領北米植民地の発展、独立を経て南北戦争と二つの大戦を契機とした米国の覇権の確立から「第三世界」を巻き込んだ冷戦、そして冷戦後までの世界を、「上から」と「下から」の双方の視点を交錯させつつ概観する。

【講義計画】 第1回 はじめに：本講義の趣旨や最終的獲得目標などの説明
 第2回 近現代史の時代区分の意味（その1）：コロンブスによる新世界到達の意味
 第3回 近現代史の時代区分の意味（その2）：「自由」と「不自由」の同時展開
 第4回 イギリスの覇権と北米植民地の発展：奴隷制が支えた13植民地
 第5回 アメリカ合衆国の独立：「革命」と奴隷制の同居の意味
 第6回 南北戦争と奴隷制：奴隷制が争点となるまでと廃止にいたる過程
 第7回 19世紀末から20世紀初頭の差別体制の復活：差別体制復活の経緯と背景
 第8回 冷戦と市民権運動の高揚：キング牧師の夢に燃えた1960年代のアメリカ
 第9回 いまだ果たされることのない夢：法的差別から事実としての差別へ
 第10回 現代アメリカ大都市の貧困と差別（その1）：「アンダークラス」の苦境
 第11回 現代アメリカ大都市の貧困と差別（その2）：「アンダークラス」と人種偏見
 第12回 現代アメリカ大都市の貧困と差別（その3）：「アンダークラス」の救済方法

【評価方法】 小テスト（3回実施、45%）と最終レポート（55%）による。授業中の積極的な態度（質問や意見陳述）はプラスに評価する（エクストラ・クレジットとして加算）。

【テキスト】 (テキストというより参考書として次の5冊を推薦する。括弧内は対応授業時)
 ・川北稔『砂糖の世界史』(岩波ジュニア新書276) (2～4)。
 ・安武秀岳『大陸国家の夢 新書アメリカ合衆国史①』(講談社現代新書929) (4～6)。
 ・野村達朗『フロインティアと摩天楼 新書アメリカ合衆国史②』(講談社現代新書933) (6～7)。
 ・上杉忍『パクス・アメリカーナの光と陰 新書アメリカ合衆国史③』(講談社現代新書938) (8～9)。
 ・ウィリアム・J・ウィルソン『アメリカ大都市の差別と貧困』(明石書店、定価4800円) (9～12)。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11311	地域文明論A（アジア）	選必	秋学期	2	1～3	田 中 恭 子
他の科目 との関連	地域文明論B（アジア）					他学科 履 修 可

【副 題】 東アジアの近代

【講義内容】 北東アジア（現在の日本・韓国・朝鮮・中国）は、古代から近世に至るまで圧倒的な中華文明の影響下にあったが、東南アジアは、ベトナムを除いてインド文明圏に属していた。まず、両地域それぞれの文明の変遷と外部世界との交流を概観し、次に、伝統文化の違いが、北東アジアと東南アジアの近代化にどのように反映したかを検討する。さらに、近代化過程における文明の変容、とくに西洋文明のインパクトとその受容形態を分析し、最後に、北東アジア・東南アジアにおける新しい文明の創造と伝播を展望する。

【講義計画】 第1回 中華文明圏とインド文明圏
第2回 大航海時代——西洋のアジア進出
第3回 東南アジアの植民地化(1) 島嶼部
第4回 東南アジアの植民地化(2) 大陸部
第5回 「西洋の衝撃」——アヘン戦争と日本の開国
第6回 中国と日本の近代化努力
第7回 東南アジアの近代化
第8回 近代アジアの移民
第9回 帝国主義の時代・ナショナリズムの時代
第10回 太平洋戦争と植民地の独立
第11回 冷戦体制下の経済発展
第12回 新たなアジア文明

【評価方法】 学期末の筆記試験

【テキスト】 なし

【そ の 他】 参考書 尾形勇・岸本美緒編『中国史』山川出版社、1998年、第5～8章。
石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史Ⅰ 大陸部』山川出版社、1999年
池端雪浦編『東南アジア史Ⅱ 島嶼部』山川出版社、1999年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11316	地域文明論B（アジア）	選必	秋学期	2	1～3	吉 川 洋 子
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 東アジア（現在の日本・韓国・朝鮮・中国）は、古代から近世に至るまで圧倒的な中華文明の影響下にあったが、東南アジアは、ベトナムを除いてインド文明圏に属していた。まず、両地域それぞれの文明の変遷と外部世界との交流を概観し、次に、伝統文化の違いが、東アジアと東南アジアの近代化にどのように反映したかを検討する。さらに、近代化過程における文明の変容、とくに西洋文明のインパクトとその受容形態を分析し、最後に、東アジア・東南アジアにおける新しい文明の創造と伝播を展望する。

【講義計画】 I 1 「東南アジア」の用語、ASEAN、APEC、ARF
2 地域の捉え方—東南アジア世界、マレー人世界、ジャワ世界、稲作社会、海域世界
3 東南アジアの多様性、文明の接点→重層化 混雑、クレオール（序章）
3-1 基層文化：部族、焼畑 アニミズム、慣習法（第1章）
3-2 外文明：文明の伝播、植民地化
3-3 民族国家から国民国家へ：複合民族（多言語、多宗教）民族の多数化、少数化
II 外文明の波：交易・貿易による文明の接触交流（第2章、第3章、第8章）
1 インド化：ヒンドゥー仏教の王朝文化 9-13世紀
2 中国化：植民地化「ベトナム」1世紀から
3 大陸部→上座仏教化 13世紀から（第2章、第8章）
4 島嶼部→イスラム化13世紀から

- 5 大航海時代「貿易風の下で」(アンソニー・リード) 15-17世紀
 III 1 欧州重商業主義による植民地化・カトリック化 (第13章)
 2 19世紀の欧米帝国主義による植民地化：植民地国家の建設とナショナリズムの起源
 (第13章、第15章、第16章)
 IV 国民国家フィリピン基礎：「重層のパイ」

【評価方法】 期末試験と小クイズ

【テキスト】 (主要) 上智大学アジア文化研究所編「入門東南アジア研究」めこん

【その他】 参考書

桜井由躬雄・石澤良昭・桐山昇『東南アジア』朝日新聞社 1993年
 アンソニー・リード『大航海時代の東南アジアー貿易風の下で』I みすず
 高谷好一『新世界秩序を求めて』中央新書 1993年
 池端雪浦編『東南アジア史』II 山川出版 1999年
 B.アンダーソン『増補想像の共同体』NTT出版 2001年

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11321	地域文明論C (ヨーロッパ)	選必	春学期	2	1～3	浜名 優美
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 地中海世界論は地理的には地中海とその周辺地域(ヨーロッパ、北アフリカ、中近東)を対象とする。まず地理的な環境の問題を取り上げ、次に歴史的には16世紀以降の地中海世界＝経済を中心とする近代の経済・社会史を論じ、さらに文明の衝突として考えられるキリスト教世界とイスラム世界の問題を歴史的文明論として取り上げる。

【講義計画】
 1 文明の十字路としての地中海世界の空間
 2 地中海世界における民族紛争はなぜ絶えないか
 3 キリスト教とイスラム
 4 16世紀における帝国主義
 5 経済＝世界の概念
 6 世界の尺度としての歴史学について

【評価方法】 レポートおよび定期試験による。(欠席過多を適用する)

【テキスト】 参考文献として、ブローデル『地中海』全10巻、浜名優美訳、藤原セレクション。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11326	地域文明論D (ヨーロッパ)	選必	春学期	2	1～3	野田 宣雄 CAVALLAR Osvaldo
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 (概要) ローマ帝国の崩壊後、ヨーロッパを舞台に出現したいくつかの帝国の歴史を辿り、その内部秩序、対外姿勢、文明あるいは宗教とのかかわり等について考察する。
 (オムニバス方式)
 (オズワルド・カバラル教授) 13世紀末以降のイタリア文芸復興期に活躍した政治家や法思想家(実務家)を素材に、ヨーロッパ文明の一面を考察する。
 (野田宣雄教授) 現代におけるヨーロッパ連合やドイツを中心とした「中欧」などの広域秩序への志向を取り上げる。

【講義計画】 (前半)
 1) ローマ帝国の破壊：ローマ法の俗化と野蛮民族の固有法
 2) ローマ法の復興と大学の起源 (特に総合大学「ラ studium generale」の概念の発展を辿る)
 3) 特権のある社会：中世紀の文明における法学者、弁護士、法学生の位置と特色

- 4) 貴族と市民：バルトルス デ サッソフェラト「標しと紋章に就いて」
 - 5) 市民権（特に女性の市民権の問題）
 - 6) 権力の問題：バルトルス デ サッソフェラトの「専制者に就いて」とマキアヴェリ「君主」。
（以上、カバラル）
- （後半）
- 1) グローバル化にともなう世界秩序の再編成
 - 2) 神聖ローマ帝国の形成と歴史
 - 3) 近代ヨーロッパの分裂と一体性
 - 4) 20世紀のヨーロッパ統合と対立の契機 （以上、野田）

【評価方法】 出席状況と学期末のレポート（3000字）（カバラル）
成績は出席状況、筆記試験の成績等を参考にしてつける。（野田）

【テキスト】 1) マキアヴェリ「君主」、2) バルトルス デ サッソフェラト「専制者に就いて」の英訳、3) バルトルス デ サッソフェラト「標しと紋章に就いて」の英訳。2) と 3) のテキストが配布されます。（カバラル）

【そ の 他】 オムニバス

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者	
11331	地域文明論E（アメリカ）	選必	春学期	2	1～3	遅野井	茂雄
他の科目との関連						他学科履修	可

【副 題】 グローバル化とラテンアメリカ

【講義内容】 ラテンアメリカ、とくに南米に焦点を絞り、この地域の文明を形成する固有の原理を、その歴史プロセスとともに、民族、社会、政治、経済、思想の諸側面から総合的に解明する。さらにグローバリズムとの対立・葛藤・受容のダイナミックな過程を明らかにすることによって、21世紀に立ち向かうラテンアメリカ世界を展望する。アジア諸国等との開発体制の相違についても検討する。

- 【講義計画】
1. ラテンアメリカ概観
 2. 多様性の中の統一
 3. 特異な民族形成
 4. 民族と社会
 5. 文化価値体系（Ⅰ）：政治文化
 6. 文化価値体系（Ⅱ）：法文化
 7. グローバリゼーションの衝撃とラテンアメリカ
 - （1）大航海時代と植民地
 - （2）産業革命と自由主義経済
 - （3）世界恐慌とポピュリズム、国家中心型発展
 - （4）債務危機とワシントン・コンセンサス
 - （5）市場経済化の挑戦
 - （6）民主化の波とラテンアメリカの民主主義
 8. まとめ

【評価方法】 定期試験と授業参加度

【テキスト】 加茂雄三・遅野井茂雄 他『ラテンアメリカ』自由国民社 1999年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11336	地域文明論F（アメリカ）	選必	秋学期	2	1～3	浅 香 幸 枝
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 トランスナショナル・エスニシティとラテンアメリカ

【講義内容】 本講義では、ラテンアメリカ、とくに中米に焦点を絞り、それらの国々と日本との関係を考察し、将来の環太平洋諸国間の友好関係のモデルとなりうるかを検討する。そのために、ラテンアメリカおよび日系移民の歴史や両地域間の草の根交流等について学ぶ。

【講義計画】

1. ラテンアメリカと日本関係の概略
2. 政治・外交関係史におけるラテンアメリカと日本
 - ・初の平等条約締結国としてのメキシコ
 - ・日・米・中南米関係の特徴
3. 移住と日系社会の形成
 - ・西欧列強諸国の支配下での100年前の日本とラテンアメリカ
 - ・北米移住から中南米移住へ
 - ・移住100年の歴史
 - ・日系社会の形成と影響力
4. パンアメリカン日系協会の活動
 - ・民主化とグローバリゼーションの時代
 - ・トランスナショナル・エスニシティとは何か？一越境する日本性一
 - ・ペルーのフジモリ大統領とパンアメリカン日系協会
 - ・日系人と日本との関係
5. 私たちにできる国際貢献とは何か？

【評価方法】 成績は出席状況、授業への積極的な参加状況、レポートを総合評価する。

【テキスト】 プリント配布

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11341	地域文明論G（アフリカ）	選必	春学期	2	1～3	坂 井 信 三
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 西アフリカ、とくにその内陸サバンナ地方は、ブラック・アフリカの文化伝統と外来のイスラームとが相まって、複雑な歴史的様相を示す独自の文明を形成した地域である。講義では多様なものの共存からなるこの地域の文明の特質を、社会構造、宗教、諸民族の生業分化と共生の様相などから論じる。

【講義計画】

1. アフリカ大陸概観
2. アフリカ史の1万年
 - 西アフリカの古気候と諸民族の分化
 - 緑のサハラ時代
 - 乾燥化の歴史
3. ニジェール川中流域の歴史と文化の形成
 - 国家の形成と長距離交易
 - 大西洋奴隷貿易の影響
 - イスラームの普及
4. 異なる諸集団の共生
 - 内陸デルタ地方の自然と生業分化
 - 市場と経済的交換のシステム
 - 都市の構造
 - 異質なものの共存の流儀

【評価方法】 定期試験による

【テキスト】 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11351	環境と文明	選必	秋学期	2	1～3	目 崎 茂 和
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 地球環境と日本文明のゆくえに責任をもとう

【講義内容】 本講義では、環境と文明の関わりについて学ぶため、主な古代文明の発達を、それを生み育んだ自然環境やその変遷との関係から概観する。さらに、東洋の環境思想の風水論、日本の文化論や日本人の特徴を環境（風土）論の視点から検討し、グローバル化した現代文明と地球環境の今後を考える。

【講義計画】 (Ⅰ) 現代文明のゆくえ
・現代世界への視点、地球環境問題と地域環境問題
(Ⅱ) 文明を育てた地球
・自然環境と人類進化
・多様な文明と環境
(Ⅲ) 地球学と日本
・環境思想の流れ ・風土論と風水学

【評価方法】 レポート、発表、テストなどによる

【テキスト】 目崎茂和『図説 風水学』（東京書籍）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11356	宗教と文明	選必	秋学期	2	1～3	VOLPE Angelina
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 21世紀に向かって、宗教のチャレンジ

【講義内容】 本講の目的は二つに分かれている。まず、世界文明と宗教心との密接な関わりを分析する。どんな文明、文化、時代においても人類は神の探求を続けてきたことが確かである。ここでは、自然的宗教から物質的無神論までを対象として、宗教心と宗教を考える。そして後半では、戦前と戦後の日本人の宗教心と宗教の歴史はどのように変わったかを分析する。

【講義計画】 1回 言葉の意味
2回 人間の思考力と宗教心
3回 宗教心と宗教
4回 現代日本人の宗教観
5回 「聖なるもの」「神」「仏」の共通点
6回 神の存在の哲学的証拠
7回 文化の違いを越える神観
8回 多神教と一神教
9回 キリスト教と日本文化との出会い
10回 日本人のキリスト教に対する抵抗
11回 日本人のキリスト教への好意
12回 結論

【評価方法】 定期的な小レポート、期末レポートを参考にしてつける。

【テキスト】 講師が資料を毎回準備し、学生に渡す。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11361	ジェンダーと文明	選必	春学期	2	1～3	藤 本 哲 史
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 21世紀における公共政策や企業経営戦略の立案において重要なエレメントとなるジェンダーの問題について考察し、ジェンダー・パースペクティブの政策応用可能性を探索する。主として雇用、教育、家族を考察対象分野とし、これらの分野における現在までの性の社会的構築および階層化のトレンドを概観し、男女を取り巻く現代社会状況の認識へとリンクさせる。

【講義計画】 (1) ジェンダーとは。社会のジェンダー化について。
(2) 性役割と性のステレオタイプ、性役割社会化（2回）
(3) 大学教育におけるジェンダー、学校組織のジェンダー化
(4) 雇用労働と性の不平等（2回）
(5) 家庭内性役割分業と男女間の社会的力のアンバランス
(6) 離婚と家族の変容
(7) 性暴力：法女性学的アプローチ
(7) ドメスティック・バイオレンス、妻や恋人に対する暴力
(8) 同性愛と人権、ホモフォビア
(9) エイズ差別
(10) リプロダクティヴ・ライツ、生殖技術の問題点

【評価方法】 期末定期試験100%

【テキスト】 指定テキストなし。必要に応じて資料を配布する予定。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11366	産業文明論	選必	春学期	2	1～3	藤 原 道 夫
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 産業文明を理解するためには、「通文化的インダストリアリズム（産業化論）」の論理と各国の歴史・社会を背景に形成されてきた個別的な制度や過程との関係を探る必要がある。本講義では労使関係を取り上げ、「産業民主主義」など各国に共通している価値理念を確認した上で、国ごとに相違している制度や過程を理解するために、日本における企業別組合を中心とする労使関係の成立と発展について考察し、他の先進工業国との間で産業文明の上で共通である点と相違する点について分析する。

【講義計画】 1. 産業化（工業化）の論理
2. 産業化の歴史的経緯～いくつかの国を対象に～
3. 産業化への抵抗と摩擦～いくつかの国を対象に～
4. 先進工業国と日本との比較～製品市場・労働市場・技術・企業・社会～
5. 産業化のリーダーと労働組合のリーダー
6. 「産業民主主義」～労使関係の目指すもの～
7. 各国の労使関係制度の類似と相違
8. 歴史と制度～労使関係の混乱と制度化～
9. 戦後日本の労使関係の成立と発展（1）
10. 戦後日本の労使関係の成立と発展（2）
11. 「産業文明」における類似と相違
12. まとめ

【評価方法】 宿題20％。定期試験80％。

【テキスト】 講義の中で、必要に応じ資料を配布したり参考文献等を指示したりします。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11371	比較社会論	選必	秋学期	2	1～3	松戸 武彦
他の科目 との関連	社会学概論					他学科 履 修 可

【講義内容】 社会現象に関しては、直接的実験は限られた分野においてしか実施できない。そこで社会学においてこの実験の意味を持つのが「比較」である。我々は比較社会学という方法を通じて、我々の生きる世界を相対化し、客観化し、その特質を把握する。比較社会論の主題は、「近代社会」の特質を非近代社会との比較によって明らかにするものから、「近代社会」内部の諸類型、「非近代社会」の比較などに及ぶ。本講義ではとくに、中国、インド、アメリカ、日本の第二次集団の比較分析によって、4つの社会間での「世界観」に示される全体社会のデザインの差異を考察する。

【講義計画】 全体を四期に分けて行う。
 第一期 比較社会の視点 近代社会と産業社会
 第二期 マックスヴェーバーの比較の視点
 第三期 地域研究としての比較社会論
 第四期 比較社会研究の実際

【評価方法】 定期試験 授業への貢献度も評価する

【テキスト】 佐々木 衛、松戸武彦編『地域研究入門』

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11376	エコシステム論	選必	秋学期	2	1～3	藤 本 潔
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 本講義では、エコシステム（生態系）の概念についての一般的な解説を行った上で、近年の人間活動の活発化に伴う生態系破壊の象徴的存在であるマングローブ生態系を取り上げ、そこでの植生、立地環境、動物、集水域および海域からの物質のインプットとアウトプットについて概説する。さらに、破壊されつつあるマングローブ生態系の修復のための取り組みを例に、地球環境保全のあり方を考える。

【講義計画】 第1回 エコシステム（生態系）とは？
 第2回 身近な里山「海上の森」を歩こう
 第3回 日本の森林の現状と課題
 第4回 陸と海の境界に成立する生態系、マングローブ生態系とその役割
 第5回 マングローブ生態系を構成する生物の特徴と役割
 第6回 マングローブ生態系を構成する立地環境と植生配列
 第7回 マングローブ立地の形成・維持機構
 第8回 マングローブ生態系と地球環境問題
 第9回 マングローブ生態系の破壊の現状と修復への試み（1）フィリピン
 第10回 マングローブ生態系の破壊の現状と修復への試み（2）タイ
 第11回 マングローブ生態系の破壊の現状と修復への試み（3）ベトナム
 第12回 人は生態系の中でいかに振舞うべきか？

【評価方法】 レポートと出席による。

【テキスト】 特になし。随時プリントを配布する。

【そ の 他】 海上の森での学外授業を行う。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11401	総合政策論Ⅰ（現代文明論）	選必	秋学期	2	1・2	浜 名 優 美
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 近代の文明はあらゆる意味で「速度」を前提として「進歩」を目指して進んできたが、現代は文明の閉塞状況にあるという認識に立って、現代の文明論的課題を既成の学問領域を横断する形で総合的に論じる。具体的には近代社会論をルソーの「社会契約論」にまでさかのぼって検討し、グローバル化の進むなかでの民族や宗教を基盤とする文明の対立の問題などを扱う。

【講義計画】

- 1 文明論の視点はなぜ重要か
- 2 「文明」と「文化」と「文明論」
- 3 「文明」概念の歴史的検討（18世紀から現代まで）
- 4 速度について
- 5 進歩について——技術は幸福をもたらすか
- 6 文明の空間、文明の伝播、文明の拒絶、文明の衝突
- 7 ルソーによる文明批判、知の歴史をふりかえる
- 8 梅棹忠夫の文明学、生態から観光まで
- 9 伊東俊太郎による比較文明学、領域横断の知
- 10 現代文明論の可能性、生命の知
- 11 予備
- 12 総括

【評価方法】 定期試験による。（欠席過多を適用する）

【テキスト】 なし。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11406	総合政策論Ⅰ（現代国家論）	選必	秋学期	2	1・2	野 田 宣 雄
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 近代のヨーロッパに関して、主権国民国家がいかにして成立し発展を遂げたかを述べ、それが19世紀から20世紀にかけて日本を含む非西欧世界の国家形成にいかなる影響を与えたかを論じる。さらに現代のグローバル化の傾向のなかでヨーロッパとアジアで国家がいかなる変容を遂げようとしているかを考究する。

【講義計画】

- ① マックス・ヴェーバの支配類型論
- ② 近代主権国家の興隆と没落
- ③ 近代主権国家に代るもの
- ④ 近代主権国家の擁護論とその限界

【評価方法】 成績は出席状況、筆記試験の成績等を参考にして定める。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11411	総合政策論Ⅰ（現代企業論）	選必	秋学期	2	2	山 本 郁 郎
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 現代日本企業の統治構造を、主として人的資源の管理・開発の面から解説する。取り上げるテーマは、採用管理、配置、雇用調整、報償制度、昇進管理、団体交渉、労働協約、労使協議制、労働者の経営参加、そして労働争議である。分析は、産業民主主義の進展が人材の育成とどうかわるのか、競争と協調が、

産業の現場でどのようにバランスを取りながら生産性に貢献しているのか、という視点からなされる。

- 【講義計画】
1. 講義の課題；企業行動と産業民主主義
 2. 現代日本企業論の構図
 3. 労働組合の経営への影響力とその基盤
 4. 大企業の人材育成—現場労働者
 5. 大企業の人材育成—ホワイトカラー
 6. 中小企業の人材育成
 7. 人材育成とモチベーション
人事・労務管理制度の展開
 8. 労使協議制度と人材育成
 9. 日本型下請制度と産業民主主義
 10. 企業行動の変容；ポスト・バブルの企業組織と仕事の変化
 11. 縁辺労働者の増大と産業民主主義への影響
 12. 企業活動のグローバル化と産業民主主義
 13. 産業民主主義の新たな課題

【評価方法】 定期試験による

【テキスト】 小池和男『仕事の経済学』第2版 東洋経済新報社

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11416	総合政策論Ⅰ（公共政策論）	選必	秋学期	2	2	加藤 尚史
他の科目との関連	ミクロ経済学・マクロ経済学					他学科履修 可

【講義内容】 本講義では、「民間の活動は一定な条件のもとで一定な意味での望ましい状態を実現する」という命題に関して条件の現実性と意味の妥当性を検討するため、都市生活、居住環境、労働環境、生活環境などの地域社会の現状や問題と、これに対する国や地方公共団体の政策について学ぶ。

- 【講義計画】
1. 序論
 2. 民間部門の活動
 3. 公共部門の活動

【評価方法】 定期試験と出席状況に基づいて評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11421	総合政策論Ⅰ（グローバルガバナンス）	選必	春学期	2	2	橋本 日出男
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 現在、世界が直面している問題（たとえば、環境、資源、人口爆発、先進工業国と途上国間の所得格差）を解決するためには、どのような方法をとればよいのだろうか。世界の資源は限られているのであるから、政策目標に順序をつける必要があるだろう、その順序づけを行うに当たって、国民の間で、あるいは、国際間で、どのように合意を作り上げていけばよいのだろうか、そして、合意が得られたとして、それをどのような形で実現していけばよいのだろうか、といった問題を考える。

- 【講義計画】 グローバルガバナンスとは、地球公共財に対する政策ととらえる。そのような大枠のなかで、このコースでは、次のような問題を考える。
1. 公共財とは何か。
 2. 公共財に対して、なぜ政策が必要とされるか。
 3. 地球公共財には、どのようなものが含まれるか。
 4. 地球公共財に対して、どのような政策が望ましいか。
 5. そうした政策を実施していくに当たって、どのようなことを考えるべきか。

【評価方法】 レポート、クラスでの発表・討論及び期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】 なし。主要参考書として、インゲ・カールほか編「地球公共財」日本経済新聞社 1999年刊

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11426	総合政策論Ⅱ（環境政策論）	選必	秋学期	2	2・3	目 崎 茂 和
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 マグロ・クジラとゴミ問題

【講義内容】 本講義では、環境政策の課題や問題点を中心に学習する。具体的には、地球温暖化と深く関わる海洋環境の問題に対する国際的、国内的取り組みを始めとして、今日の主な環境問題に対する国際条約、環境基本計画、環境アセスメントなどの環境行政や市民運動について概説する。

【講義計画】

- I) マグロに学ぶ環境政策論
政策論の環境とは、
自分自身の環境政策論を作成できるか
- II) 地球・地域の環境政策論
地球温暖化問題とその政策論
さまざまな地域環境問題
- III) 環境政策とその対応論
国際条約
環境基本法と環境基本計画
企業の環境政策論
自然保護とそのNPO運動
ゴミ問題と愛知県

【評価方法】 レポート、テストなど

【そ の 他】 沖縄本島での野外実習を予定（希望者のみ）
長良川河口堰・藤前干潟ないしゴミ処理場への見学実習

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11431	総合政策論Ⅱ（国際相互依存論）	選必	春学期	2	2・3	須 藤 季 夫
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 国際関係の相互依存関係が進展する中で、国内においては地域分権化が要請されるとともに地方の国際化が活性化している。この傾向が強化されるとグローバリズムそして国際相互依存も促進されることになる。地方、地域と国際社会が複合的に関連しつつある現状をケース・スタディーに基づきながら学習する。

【講義計画】

- 1 総合政策論とは何か
- 2 国際社会の捉え方
- 3 相互依存の世界
- 4 政治・経済のグローバル化
- 5 国際社会のレジーム化と政策調整
- 6 政策協調と予防外交
- 7 国際交渉と紛争解決
- 8 アジアの地域紛争と日本の役割
- 9 東アジアの地域化
- 10 地方分権化と地域交流
- 11 民際外交の可能性
- 12 国際政策論をめざして

【評価方法】 レポートと期末試験

【テキスト】 渡辺昭夫編 現代日本の国際政策 有斐閣 1997

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11436	総合政策論Ⅱ（人的資源論）	選必	春学期	2	2・3	藤 原 道 夫
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 公教育や公的職業訓練を経て、企業が採用する人的資源に焦点を合わせる。企業内において、技能系や事務・技術系従業員についてどのような人材形成を求めるのかという点について、固有技術・技能や会社人としての意識醸成や業務改善・管理技術に関する人材形成について講義する。さらに、人材形成とは、狭義の教育・訓練の領域にとどまらないことを指摘し、日本企業に将来必要とされる人材像について論じる。

【講義計画】

1. 人的資源と経済発展
2. 社会移動と教育・訓練投資
3. 公教育の展開と人的資源
4. 公的職業教育・訓練と人的資源
5. 企業内職業教育・訓練と人的資源
6. 日本企業の人材形成・育成（1）
7. 日本企業の人材形成・育成（2）
8. 人材形成・育成の国際比較
9. 企業内の人事・労務システムと人材形成・育成
10. 社会・経済の環境変化と人材形成・育成の変化
11. まとめ

【評価方法】 宿題20％。定期試験80％

【テキスト】 なし

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11441	総合政策論Ⅱ（組織行動論）	選必	秋学期	2	2・3	高 橋 潔
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 心理学における研究法・測定法に基づいて、経営組織における人間行動や従業員の態度を研究してきた様々な応用心理学研究と、その背景にある基礎心理学理論を取り上げる。その際、組織で働く従業員の個人行動や個人差、上司・同僚・部下との間の対人関係や職場での集団過程、ならびに職務構造・組織構造を含めた組織過程に焦点をあてる。とくに、欲求・職務満足・組織コミットメント・動機づけ・職務設計・ストレス管理・集団葛藤・意思決定・リーダーシップ・キャリア開発・組織構造・組織文化・組織開発などに関連する諸研究を考察する。

【講義計画】

1. 経営管理と組織行動
2. モティベーション（1）：内容理論
3. モティベーション（2）：過程理論
4. 職場のストレス管理
5. リーダーシップ
6. 組織開発

【評価方法】 定期試験による

【そ の 他】 参考図書
田尾雅夫（1991）組織の心理学 有斐閣ブックス

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11446	総合政策論Ⅲ（先進国政治の課題）	選必	夏期前半	2	3・4	我 部 政 明
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 国際化とグローバリゼーションの時代と言われるようになって久しい。とりわけ、米欧日の先進社会間ではボーダレス化の途上にある。では民族や国家という伝統的単位は無意味になるのか。そうではない。国家のあり方は時代の波の中で変容し、国家以外の集団が質量ともに上昇するが、国家は依然、人々の生存と福利を左右するほどに重要な主体であり続けるだろう。本講義では、そうした大きな流れを意識しながら、日本の国際社会との関与を日米関係を中心に跡づけつつ考察する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11451	総合政策論Ⅲ（国際環境と日本）	選必	秋学期	2	3・4	木 村 宏 恒
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 近代日本は、国際環境にいかに対応すべきかに揺れつづけ、現在もなお、確かな答えを出したとは言えない。なかでも、近隣のアジア地域とのかかわり方は、模索の連続であったと言えよう。この講義では、まず、近代日本が国際環境にどう対応してきたか、なぜそうしたかを、アジアとのかかわり方を中心に明らかにする。これを踏まえて、現在の日本の対外関係、対外政策、とくに対アジア関係、対アジア政策を分析し、21世紀の日本の国際環境とのかかわり方、働きかけはいかにあるべきかを考察する。

【講義計画】 講義の最初の時間に配布する。

【評価方法】 基本的には期末試験の成績によるが、授業中何度か感想を書いてもらい、出席点代わりとする。

【テキスト】 毎回プリント配布。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11456	総合政策論Ⅲ（労働問題と政策）	選必	春学期	2	3・4	村 松 久 良 光
他の科目との関連	マクロ経済学 経済政策論 総合政策論Ⅰ（現代企業論）総合政策論Ⅱ（人的資源論）日本経営論 労働経済論 経営労務論					他学科履修可

【講義内容】 我が国や企業が直面する政策上の課題のなかで、雇用調整と失業、企業規模間の格差、高年労働者の雇用と賃金、女性労働者の雇用と賃金、ホワイトカラーの処遇と働きがいなど、現代の労働に関する諸問題を取り上げる。まず、問題の所在を国際比較をしながら実態に基づいて共通点と相違点を明らかにする。その上でそのような差異に関する仮説を考察し、主として人的資源の有効な活用という視点から政策のあり方を論じる。

【講義計画】 基本的には下記のテキストに沿って説明し、統計資料や事例を追加して進める。

序説：さまざまな労働者グループ、知的熟練

1. 長期雇用と解雇
2. 現代の理論
3. 中小企業労働者
4. 女性労働者
5. 高年労働者
6. 日本の仕事方式の将来

【評価方法】 授業への参加熱心度を加味し、筆記の定期試験の成績によって評価する。

- 【テキスト】 小池和男『仕事の経済学第2版』（東洋経済新報社、1999）
図表などを参照するために、授業には必ずテキストを持参すること。
- 【その他】 この講義ではテキストの後半部分を用いる。前半部分は2年次秋学期に開く労働経済論で使用している。この講義を受講していない場合にも受講可能であるが、テキストの前半部分をあらかじめ自習することが望ましい。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11461	総合政策論Ⅲ（政治構造と社会変動）1	選必	春学期	2	3・4	田 中 恭子
他の科目との関連	地域文明論A（アジア）、地域文明論B（アジア）					他学科履修可

- 【講義内容】 東南アジア諸国を中心に、途上国の政治と社会を理解することを目的とする。まず第一に、国家と社会の関係をとり上げ、脱植民地化、国民国家の形成、社会的価値観と政治文化、複合エスニシティなどの問題を検討する。第二に、広義の近代化の概念について、近代化政策と社会変動の観点から論じる。そして第三に、開発政策と政治体制の変容をテーマとして、貧困の解決、農地改革、経済開発、社会・政治の安定と不安定、といった問題について考察する。

- 【講義計画】 本年度は、マレーシアをケースとして取り上げ、これを中心に東南アジア地域の政治構造と社会変動を分析する。

- 第1回 歴史的背景——ムラユ世界とムラカ王国
 第2回 ポルトガル、オランダ、イギリスの東南アジア進出
 第3回 イギリス植民地支配の政治構造
 第4回 移民の流入と複合社会の形成
 第5回 日本による占領とマレー・ナショナリズム
 第6回 マラヤ連合案とUMNOの結成
 第6回 マラヤ連邦の国民統合——「非常事態」・市民権・言語問題
 第7回 ムルデカからマレーシア連邦へ
 第8回 5月13日事件の衝撃
 第9回 ラザクのプミプトラ政策
 第10回 マハティール政権の登場
 第11回 「ルック・イースト」とEAEC構想
 第12回 「ヴィジョン2020」

- 【評価方法】 期末試験（筆記）

- 【テキスト】 【教科書】 萩原宜之『ラーマンとマハティール』岩波書店、1996年。
 【参考書】 ザイナル・アビディン・ビン・アブドゥル・ワーヒド編（野村享訳）『マレーシアの歴史』山川出版社、1983年。
 池端雪浦編『東南アジア史 島嶼部』山川出版社、2000年。
 金子芳樹『マレーシアの政治とエスニシティ』晃洋書房、2001年。
 石井由香『エスニック関係と人の国際移動——現代マレーシア華人の選択』国際書院、1999年。
 堀井健三・萩原宜之編『現代マレーシアの社会・経済変容』アジア経済研究所、1989年。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11462	総合政策論Ⅲ（政治構造と社会変動）2	選必	秋学期	2	3・4	吉 川 洋子
他の科目との関連	地域文明論B（アジア）					他学科履修可

- 【講義内容】 東南アジア諸国を中心に、途上国の政治と社会を理解することを目的とする。まず第一に、国家と社会の関係をとり上げ、脱植民地化、国民国家の形成、社会的価値観と政治文化、複合エスニシティなどの問題を検討する。第二に、広義の近代化の概念について、近代化政策と社会変動の観点から論じる。そして第三に、開発政策と政治体制の変容をテーマとして、貧困の解決、農地改革、経済開発、社会・政治の安定と不安定、といった問題について考察する。

- 【講義計画】 今年度は東南アジアのうちフィリピンの事例を考える。その時々ビデオ教材を使用する。
- 序 ミグダル『社会の中の国家』論
- 1 オリガーキー民主政治：パトロン－クライアント関係「民主制は衆愚政治」の議論をめぐって
- 1) 大統領制、議会、選挙政治、政策決定過程
 - 2) 経済社会構造：富裕エリートと貧困大衆
 - 3) 国民統合の問題：南部ムスリム、山岳部少数民族
- 2 山積する課題：人口爆発、貧困、失業、経済保護主義、農地改革の不実施
- 3 権威主義体制の成立：マルコス戒厳令体制：開発独裁体制の崩壊（CF.インドネシア）
- 4 反体制武装反乱：共産主義勢力、南部ムスリム分離主義
- 5 政治改革の新しい波
- 1) ビーブルパワーⅠとⅡ：大衆動員型直接民主主義、どんな政治勢力・主体が推進したか
 - 2) 87年憲法、政治制度、政治過程の改革（多選禁止、弱小集団の特別議席）
 - 3) 市民社会の出現：NGO、POの政策形成参加と影響力
 - 4) 少数民族の自治政府、和平交渉の過程
- 6 マルコスの農地改革実施、アキノの農地改革実施
- 7 政治指導者の腐敗汚職
- 8 森林をめぐる政治力学（『森林から生まれる権力』）

【評価方法】 小報告 学期末テスト

【その他】 参考書 大野拓司・寺田勇文編『現代フィリピンを知るための60章』明石書店
 デービッド ワーフェル『現代フィリピンの政治と社会』明石書店
 デービッド スタインバーグ『フィリピンの歴史・文化・社会』明石書店

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11501	国際社会と法	選	春学期	2	2～4	岡田 泉 青木 清
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 国境を越えた人々の活動が増加・活発化するに伴い、世界では様々な紛争が発生している。それは、国家間レベルでの紛争であったり、私人間レベルでの紛争であったりする。本講義では、これらの国際的なトピックにつき、法的な観点から分析し、その紛争の解決システムあるいは国際社会の中での法の役割といったことを考察する。

とはいえ、まだ専門的に法律学を勉強した経験のない学生がほとんどであろうと思われるので、当初数回は、法律学への誘いといった役割を担えるトピックを扱うことにする。

【講義計画】 おおよそ下記のようなテーマで、各回の講義を行う。

第1回 国際法の課題—国連と国際法、条約の締結

第2回 戦争、武力行使の規制—国際連盟、不戦条約、国連憲章

第3回 安全保障と自衛権—集団安全保障体制、地域同盟、地域紛争

第4回 日本の平和と安全—安保条約、国内法、裁判事例

第5回 核兵器と国際法と日本—原爆裁判、ICJ、非核三原則

第6回 国際犯罪と国際法—国家管轄権と国際刑事裁判所
（以上、岡田）

第7回 ケーキの分け方—紛争解決の色々

第8回 法律学の世界—法の体系・構成

第9回 日本社会と法—近代法の導入（外国法の影響）、法典論争、法意識

第10回 国際結婚と国籍—国籍、戸籍、法例

第11回 在日外国人をめぐる法的問題—国籍、外国人登録、入管法

第12回 海外での事故とその解決—国際裁判管轄権、国際訴訟競合
（以上、青木）

【評価方法】 受講状況（出席、受講態度、質問）、レポート、定期試験を総合的に評価する。

【テキスト】 教科書は特に用いないが、講義には、小型のもので構わないので必ず六法を持参すること。参考書は、講義中に適宜紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11503	日本政治論	選	秋学期	2	2～4	荒 木 義 修
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 現代日本政治の実証的分析

【講義内容】 戦後の日本政治を、国際政治経済環境、政治システムとその影響、自民党一党支配、官僚制度とその役割などの観点から概観する。さらに、1989年以降の選挙制度改革、政界再編、連立政権による支配、財政改革、福祉改革など一連の変化の原因と影響を吟味する。最後に、日本の政治現象・行動を説明する際に、普遍的説明が可能なのか、それとも固有の文化的説明が必要なのかを、外国の政治制度・現象との比較を通して考える。

【講義計画】 1993年の政界再編成以降の連立政治、有権者の投票行動などを具体的なデータをもとに分析し、戦後政治の大きな流れの中で、日本政治の将来を探る。また、最近、ロバート・パットナムが提起した「社会資本」という概念と、わが国の有権者の政治参加の問題を取り上げる予定である。時間があれば、アメリカでの同時多発テロの問題を、わが国の地下鉄サリン事件も含めながら、政治心理学的に分析し、わが国の防衛政策のあり方を考えてみたい。

- ① 石油ショック以降の自民党支持者の回帰現象
- ② 政界再編期における無党派層の急増現象
- ③ 阪神大震災、地下鉄サリン事件と政治的無関心の全国的蔓延
- ④ 住専問題・消費税導入と政界再編期以降の無党派層の変質
- ⑤ 小泉内閣の経済運営と有権者
- ⑥ 「社会資本」の蓄積と政治参加
- ⑦ テロリズムとわが国の防衛政策

【評価方法】 筆記試験（持ち込み可）

試験問題は、大きなテーマを出題するので、常時講義に出席していないと答案が書けなくなるので注意されたい。持ち込み可の試験なので、記憶するのではなく、理解することをこころがけていただきたい。

【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11505	人権政策論	選	春学期	2	2～4	小 林 武
他の科目との関連	「憲法」・「地方自治論」を受講することが望ましい。					他学科履修可

【副 題】 「人権」実現の課題を考える

【講義内容】 「人権」＝基本的人権は、21世紀においても、政策展開のキーワードとなる。欧米の立憲主義の歴史の中で生まれ育った人権の観念は、その後全地球的なものとなり、今日では、各国の対外政策上の原理ともされている。わが国でも、今なお人権実現のために解決されるべき課題は多い。講義では、人権にかかわる制度を概観し、また裁判例などにあらわれる問題をととして人権の現状を明らかにした上で、企業などの団体および国家における人権実現のための政策のあり方を、人権の国際的保障に留意しながら考える。

【講義計画】 ほぼ次の順序で進める。

- 1 開講にあたって。人権＝基本的人権とは何か
- 2 人権の成立とその体系
- 3 人権の享有者・侵害者
- 4 人権を制限する論理
- 5 人権保障のためのしくみ——違憲審査制
- 6 違憲審査制の軌跡
- 7 憲法判例と行政権
- 8 憲法判例と立法権

- 9 憲法判例の現在
- 10 憲法判例と裁判運動
- 11 外国への日本違憲審査制の紹介
- 12 人権政策の課題。閉講のことば

【評価方法】 テスト（筆記試験）による。出席を加味することもある。

【テキスト】 小林 武著『憲法判例史序説』（三省堂）

【そ の 他】 人権をめぐる社会に生起している具体的な問題に注目して、わかりやすい講義にしたい。そのため、新聞やTVに報道された事実などを多くとりあげて話す。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11507	環境保全論	選	春学期	2	2～4	目 崎 茂 和
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 ジュゴン・サンゴの海から地球を守りたい

【講義内容】 本講義では、なぜ自然を守る必要があるのか、どのようにして生活環境を守ればいいのかといった環境保全や環境教育の課題を学ぶ。そのために、身近な自然である森林、里山、河川と湿地・湖沼、海浜あるいは干潟などの自然とその生態系の仕組みを紹介し、その環境の悪化をもたらす問題を指摘し、環境保全のあり方を総合的に考える。

【講義計画】

- I) 環境保全がなぜ必要なのか
環境とは、地球、自然、生活圏など対象がさまざま
自分自身の環境保全論を作成できるか
- II) 保全すべき環境とは
サンゴの海からみた地球環境問題
さまざまな自然環境と保全問題
- III) 環境保全の行方
公害とその防止
自然保護とその運動
海上の森をどうするか

【評価方法】 レポート、テストなど

【そ の 他】 沖縄・石垣島サンゴ礁での野外実習を予定（夏休み・希望者のみ）
海上の森での実習

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11511	経済政策論	選	秋学期	2	2～4	眞 継 隆
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 資本主義国家においては、経済問題は主として市場機構を通じて解決されることになっている。しかし実際のところ、この機構にはいくつもの重大な欠陥がある。市場機構ですべての経済問題がうまく解決されるわけではないのである。資本主義国家の政府には、この市場の欠陥を補完する役割、すなわち資源配分機能、経済安定化機能、富と所得の再分配機能という3つの役割がある。本講義では、これら3つの機能を、ミクロ経済学とマクロ経済学の知識を援用しつつ解説する。

【講義計画】

1. 市場経済と政府の役割
2. 経済理論の歴史
3. 経済政策の目標と手段
4. 経済政策の効果分析

5. 消費関数と乗数効果
6. 投資関数とIS曲線
7. 貨幣需要関数とLM曲線
8. 総需要曲線と総供給曲線
9. 環境問題と環境政策

【評価方法】 期末試験の成績を中心に評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11513	現代家族と法	選	秋学期	2	2～4	松 倉 耕 作
他の科目 との関連	民法、憲法					他学科 履 修 可

【講義内容】 現代家族が直面する諸問題のうち、いわゆる「家族法」を軸に、家族政策、国際家族法（国際私法、たとえば国際結婚）に論及する。法律システムの概要を述べた上で、立法の変遷や判例の変化などにも留意する。とくに、家族機能の変遷、親子関係の位置づけの変化、不貞に対するサンクションの変遷、離婚手続の変遷などを取り上げて考察する。

- 【講義計画】
- 1 夫婦
 - (1) 婚約
 - (2) 結婚
 - (3) 離婚
 - 2 親子
 - (3) 嫡出子
 - (4) 非嫡出子
 - (5) 養子
 - (6) 人工授精子
 - 3 相続
 - (1) 法定相続
 - (2) 遺言相続
 - (3) 遺留分
 - 4 家庭裁判所

【評価方法】 試験の結果のほか、レポート、平常点をも考慮する。

【テキスト】 松倉耕作『家族法』一粒社

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11515	国際政治行政論	選	春学期	2	3・4	LIM Robyn J.
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 This course will introduce some basic themes in the study of international politics

【講義内容】 冷戦期以降の国際政治の重要な特徴のひとつは、安全保障や経済開発における国際協力の発展にある。冷戦期には東西各陣営内で、冷戦後には世界の各地域を中心に、国際協力の分野が拡大し、その程度も緊密化してきた。このため、国際行政の範囲が拡大し、重要性が高まっている。こうした展開を踏まえて、この講義では、第2次世界大戦以後の国際政治・行政の推移を、次のような側面から考察する。(1)個別国家における対外政策の決定と実施過程、(2)国連、EU、ASEAN等、国家間協力組織の形成、運営、政策実施過程、(3)NGO（非政府組織）の活動とその役割、(4)将来の国際政治、国際行政のあるべき姿とそれへ向けての取り組み。

- 【講義計画】
- 1 The evolution of the modern state system
 - 2 European expansion
 - 3 The 'realist' tradition in international politics
 - 4 The 'liberal' tradition in international politics
 - 5 The Cold War
 - 6 Formation of NATO
 - 7 Formation of the EU
 - 8 'Collective security' in East Asia
 - 9 The UN and the post Cold War Era
 - 10 UN and regional conflicts-Somalia, Bosnia etc
 - 11 ASEAN in the post Cold War Era
 - 12 Japan and the international system
- 【評価方法】 Examination will be by a series of short reports. Attendance is compulsory. Students will also be assessed on participation
- 【テキスト】 Robert Jackson and Georg Sorensen, *Introduction to International Relations* (Oxford: Oxford University Press, 1999)
- 【その他】 This course will be taught entirely in English.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11517	国際貿易論	選	秋学期	2	3・4	山田 正次
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 国境を越える経済取引を分析対象とし、最初に各国間の貿易構造を決定する経済原理を説き、次いで国際貿易が帰結する国家への厚生効果、国内諸産業間および生産要素間の利害対立を含む諸効果を分析し、そうした国内の利害対立と貿易の国際政治問題化の関係を明らかにする。そして国際機関や各国政府による種々の貿易規制について、その目的と影響を検討した後、これに対する各国の政府および企業や産業の反応が新たな結果を招くこと、とくに企業の海外直接投資が関係各国間の貿易構造転換を必然化するメカニズムを講述する。

- 【講義計画】
1. 比較優位の原理
 2. 比較優位と生産要素
 3. 貿易利益と交易条件
 4. 国際貿易政策
 5. 国際資本移動

【評価方法】 定期試験の成績だけで評価する。

【テキスト】 なし。各章毎に参考文献を示す予定。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11521	国際金融論	選	秋学期	2	3・4	森川 浩一郎
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 貿易不均衡のファイナンス、為替レートの変動、国際通貨制度の改革、デリバティブズの発達に伴う国際金融市場の革新、といった国際金融分野における現代の諸現象を、理論・統計・制度の三つの側面からバランスよく分析することを目的とする。講義の前半では、基礎的な統計知識や理論手法の習得を目指し、後半では、インターネットを利用した情報収集やパソコンの表計算ソフトなどを利用した解析を取り入れながら、様々は現実問題について受講者に自主的に分析させることを授業の基本とする。

【講義計画】 国際収支の概念と国際収支表の見方 弾力性アプローチ

為替レート概念	Jカーブ効果
為替レートの決定理論（フローアプローチ）	アブソープション・アプローチ
為替レートの決定理論（ストック・アプローチ）	ISバランス・アプローチ
購買力平価説	マーシャル・ラーナーの条件
金利裁定取引	国際通貨制度とその変遷
カバー付金利裁定	金本位制下の為替レートの決定
	金本位制下における国際収支の調整

【評価方法】 筆記試験のみによって厳格に行う。正当な理由がない限り出席率が低い者は、失格にする場合がある。

【テキスト】 テキスト：特になし

【その他】 参考書：山田・若林編『入門国際経済学』成文堂
深尾光洋著『実践ゼミナール国際金融』東洋経済
西川俊作編『経済学とファイナンス』東洋経済新報社

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11523	地域経済論	選	秋学期	2	3・4	橋本 日出男
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 ある地域の中で、あるいは、そこに間わりあう地域の間には、いろいろな“関連”がある。たとえば、ある市に高速道路のインターチェンジができたとする。その市とその近隣に住む人々の所得は増えるだろう。増えたとしたら、どのくらい増えるのだろうか。反面、公害も増え住環境は悪化するかもしれない。こうした関連を、数式化できるとしたら、経済モデルの作成が可能となる。また、コンピュータシミュレーションによって、所得を最大化し、公害の影響を最小化するような方法を考える。

【講義計画】

1. 地域の所得と雇用の決定
2. 地域間格差
3. 地域間の交易と移動
4. 空間経済
5. 地域政策
6. 都市問題
7. 地域産業

【評価方法】 レポート、クラスでの発表・討論および期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】 なし。参考書および参考資料は後日指定する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11525	地域政治変動論	選	秋学期	2	3・4	田中 恭子
他の科目との関連	地域文明論A（アジア）、地域文明論B（アジア）					他学科履修 可

【講義内容】 20世紀はアジア激動の時代であった。東アジア・東南アジアの両地域を中心に、20世紀とくに1940年代以降の域内外の政治変動および地域間関係・国際関係の変動をあとづけ、分析する。欧米列強の植民地支配から、戦争、独立、冷戦を経て、苦しみながら徐々に力をつけ、70～80年代に至って経済繁栄を実現した。こうした変動の複雑な様相を整理し、その構造と要因を分析する。

【講義計画】 第2次世界大戦を境に、東アジア地域政治は大きく変貌した。戦後から現在まで、この地域の国際政治の変動は、中国の対外政策、対外関係の変動が重要要因となって展開している。本講義では、中国の対外関係を中心にすえて、東アジア地域政治の変動を分析する。

- 第1回 戦後の東アジア世界
- 第2回 中国の対外認識と世界戦略の変動
- 第3回 地域政治のなかの中国——冷戦期、中ソ対立期、ポスト冷戦期

- 第4回 中国とアメリカ
 第5回 中国と日本——政治関係と経済関係
 第6回 中国とソ連・ロシア
 第7回 中国とアジア社会主義圏——北朝鮮、インドシナ、モンゴル
 第8回 中国と東南アジア・ASEAN
 第9回 中国と台湾
 第10回 中国と香港
 第11回 中国と華僑華人
 第12回 アジア太平洋の国際秩序

- 【その他】 【教科書】 岡部達味編『中国をめぐる国際環境』岩波書店、2001年。
 【参考書】 田中恭子編『現代中国の構造変動 8 国際関係』東京大学出版会、2000年。
 田中明彦『日中関係1949-1990』東京大学出版会、1991年。
 国分良成編『日本・アメリカ・中国——強調へのシナリオ』TBSブリタニカ、1997年。
 岡部達味編『ポスト冷戦の東南アジア』日本国際問題研究所、1995年。
 山本勲『中台関係史』藤原書店、1999年。
 若林正文『台湾——分裂国家と民主化』東京大学出版会、1992年。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11527	都市環境論	選必	春学期	2	3・4	加藤 尚史
他の科目との関連	ミクロ経済学、統計解析、環境経済学					他学科履修 可

- 【講義内容】 都市環境を管理するには、そのレベルを捉えたうえで、それを保全したり改善したりするための施策を考えるということが求められる。講義においては、補捉の方法と政策の立案について解説するとともに事例研究についても考える。

- 【講義計画】 1. 序論
 2. 補捉の方法
 3. 政策の立案

- 【評価方法】 定期試験と出席状況に基づいて評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11531	アジア国際関係論	選	春学期	2	3・4	吉川 洋子
他の科目との関連	地域文明論B（アジア）					他学科履修 可

- 【講義内容】 アジア太平洋地域の国際関係を、東南アジアを中心として、歴史的・政治的視点から講述する。まず、アジア太平洋地域の地政学的基础を考える。次に、国家間の紛争、脅威の認識とそれへの対応、文明の衝突論、エスニシティ、ナショナリズム、イデオロギー、などを検討する。さらに、冷戦期及び冷戦後の安全保障体制とその問題点を、朝鮮半島問題、インドシナ問題、南シナ海問題、軍拡競争などを中心に論じる。最後に、日本を含む複合的相互依存関係のネットワークとその問題点を考察する。

- 【講義計画】 I 1) 東南アジアの地政学的基础 地理、戦略的位置、国力（ハード、ソフトパワー）
 2) 脅威、紛争の種類（地域内、国家間、内戦・内乱—分離独立、エスニック、イデオロギー、テロリズム）、非両立性と非対称性
 3) 安全保障の概念と手段—外交政策、同盟、協調的集団安全保障（ARF）、予防外交
 II 冷戦型地域戦争・紛争 1) 第一次インドシナ戦争〔抗仏〕
 2) 第二次インドシナ戦争（ベトナム戦争）
 3) 第三次インドシナ戦争（カンボジア紛争）
 III ポスト冷戦型紛争の抑止と和平
 1) 南シナ海領有権争い 2) 分離独立主義、エスニック紛争
 以上のうち、講義はIIの部分を中心に行う。

【評価方法】	書評レポートと学期末テスト
【テキスト】	松岡 完『ベトナム戦争』中公新書
【その他】	参考書 R.マクナマラ『マクナマラ回顧録』共同通信社 古田元夫『ホーチャーミン』岩波書店 N.チャンダ『ブラザーエネミー』めこん バオ・ニム『戦争の悲しみ』めるくまーる 池田 維『カンボジア和平への道』都市出版 河野雅治『和平工作』岩波書店

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11533	アジア政治論	選	秋学期	2	3・4	木村 宏恒
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 1997年から始まったアジア経済危機は、98年にはインドネシアで大衆暴動に発展し、スハルト政権を崩壊に追い込んだ。30年続いた長期安定政権のあつけない最後は、インドネシア政治あるいはアジア政治の特質を示すものでもある。この講義では、東南アジアを中心に、アジア政治の近代化過程をあとづけ、その権威主義的性格と民主化の相克を検討するとともに、複合社会に特有の複雑で多様な政治問題と、それらの問題と苦闘するアジア政治の特質を明らかにする。

【講義計画】 講義の最初の時間に配布する。

【評価方法】 基本的には期末試験の成績によるが、授業中何度か感想を書いてもらい、出席点代わりとする。

【テキスト】 毎回プリント配布。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11535	法政策比較論	選	春学期	2	3・4	松倉 耕作
他の科目との関連	現代家族と法、民法、憲法					他学科履修 可

【講義内容】 ドイツ、スイス、オーストリアなどの法制及び法文化の違いを論じる。扱う内容としては、スイス民法を軸にすえ、他の3国と比較しながら進める。扱う項目としては、立法過程の違い、特定項目を例にとり各国での扱いの違いを比べることを講義する。特定の項目の例としては、非嫡出子の地位の違い、離婚の領域での違いを通じて、背景にある文化の違いを考察することを目指す。

【評価方法】 授講態度、テストの結果など。

【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11537	環境経済学	選	春学期	2	3・4	若井 隆司
他の科目との関連	経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、総合政策論Ⅰ（公共政策論）、総合政策論Ⅱ（環境政策論）、都市環境論、経済政策論					他学科履修 可

【副 題】 環境経済学の基礎的な理論と政策について解説する。

【講義内容】 環境問題への経済学的アプローチを検討し、環境と調和する経済への視点について考察する。近年では、

「持続可能な発展」という言葉がしばしば用いられ、自然環境の保全や経済開発の決定に際して、経済効率性以外の目標がどの程度まで考慮に入れられるべきなのか等の課題があげられている。ここには、環境評価の問題や環境管理のための経済分析の応用手法の確立等、今後取り組むべき課題が示されている。講義では、外部不経済論、社会的費用論の意義、エコロジー経済学の考え方、環境税や排出許可証取引制度など様々な環境政策手段の実際、地球環境問題の経済学を取り上げて検討する。

- 【講義計画】
- 1) 環境経済学の課題
 - 2) 消費者余剰と生産者余剰
 - 3) 市場の失敗
 - 4) 環境税の理論－ピグー税とボーモル・オート税
 - 5) 環境税の理論と実際
 - 6) 費用便益分析の考え方
 - 7) コースの定理
 - 8) 排出許可証取引制度
 - 9) 国際環境政策の展開
 - 10) 持続可能な発展への課題

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11541	地球環境論	選	春学期	2	3・4	藤 本 潔
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 地球環境の要素についての概説を行い、現在の地球環境が形成されてきた歴史について考察する。とくに第四紀における気候変動、海水準変動、およびそれらに伴う地形変化について講義を行う。また、完新世以降活発化した人間活動が自然環境に与えた影響についても解説し、人間活動が地球環境に与える影響の可能性について講義する。

- 【講義計画】
- 第1回 地球環境を構成する自然要素
 - 第2回 変動する地球環境（1）更新世の気候変動と海水準変動
 - 第3回 変動する地球環境（2）完新世の気候変動と海水準変動
 - 第4回 気候変動と地形形成（1）内陸域
 - 第5回 気候変動と地形形成（2）沿岸域
 - 第6回 気候変動と人類
 - 第7回 主要な人間生活の場としての海岸環境
 - 第8回 日本の海岸環境の特徴と現状
 - 第9回 臨海沖積低地の成り立ち
 - 第10回 沖積低地の環境変化と人間活動
 - 第11回 熱帯地域の海岸環境－マングローブとサンゴ礁－
 - 第12回 人間活動が自然環境に与えた影響と地球環境の将来

【評価方法】 定期試験と出席による。

【テキスト】 特になし。随時プリントを配布する。

【その他】 地歴の教員免許取得希望者は履修することが望ましい。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11543	アジア移民論	選	春学期	2	3・4	MUNCADA Felipe
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 外国人労働者は現代の日本に数多くいる。労働移民が生じるのはどのような要因に基づくのか、また、国と国との間で労働移動が起こるのはマクロやミクロの経済学の理論によってどのように説明されるのかを検討する。さらに、労働移民の送り出し国と受け入れ国の双方にとっての利害得失について講義する。

【講義計画】 The class proceeds with lectures and video clips on labor migration theories and migration issues. There are periodic quizzes to evaluate students' grasp on the subject matter and reflection papers to encourage independent thinking.

【評価方法】 Grades are based on attendance, class participation and reports.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11545	日本経営論	選	春学期	2	3・4	大 津 誠
他の科目との関連	経営学を履修していることが望ましい（同時履修可）					他学科履修 可

【講義内容】 この講義の目的は、経営管理及び労務管理、生産管理、マーケティング等の個別分野において日本企業に特徴的に用いられてきた手法（日本的経営）について論ずることにある。日本的経営はどのように形成されてきたのか、又現在どの程度変化しつつあるのかを文化的伝統及び環境要因とのかかわりにおいて明らかにしたい。そのために、日本の組織風土及びビジネス環境の変化について概観した後、以下のトピックにつき検討する。企業集団、コンセンサスマネジメント、終身雇用とOJT、企業別組合、TQC、JIT、流通系列。

【講義計画】 第1・2週 収斂仮説
第3・4週 日本的経営の概観
第5・6週 経営環境の変遷（1960－2000）
第7・8週 終身雇用と生産管理
第9・10週 経営意思決定
第11・12週 企業集団及び系列

【評価方法】 中間テスト 40
定期試験 60

【テキスト】 （予定）拙著 Inside Japanese Business : A Narrative History, 1960－2000, M.E. Sharpe.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11601	政治過程論	選	春学期	2	2～4	深 井 慈 子
他の科目との関連						他学科履修 可

【講義内容】 デイヴィッド・イーストンのシステムの分析枠組みに拠って、現代社会における政治過程を政治制度、政治文化、さらに経済と社会の構造や制度との関連の中で考察する。とくに、日本や欧米の先進工業諸国における政治過程の実際を、行政機構、選挙、政党、利益集団、マスメディア等の構造と機能を中心に説明する。

【講義計画】 1. 政治過程の理論と方法
2. 政策決定過程

3. 課題設定・政策実施・政策評価
4. 政治システムと個人
5. 世論と投票行動
6. 選挙制度と政治参加
7. 利益団体
8. 政党
9. 議会と立法過程
10. 官僚制と政策過程
11. 政策ネットワーク
12. 執政集団とリーダーシップ
13. 国際化における政治過程

【評価方法】 定期試験による。

【テキスト】 伊藤光利、田中愛治、真淵勝著 【政治過程論】 有斐閣

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11603	国際開発論	選	秋学期	2	2～4	橋本 日出男
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 ここでは、世界銀行、国際通貨基金（IMF）、国際連合や各国の政府、あるいはNPOが、どのような形で途上国の開発に関する政策を形成し、それを実行しているかを考える。政策目標とは何か。政策実現の方法として何があるか。経済問題、政治的あるいは社会的問題をどのように調整していけばよいのか。こうしたことを考えるため、いくつかの途上国をとりあげケース・スタディをする。

【講義計画】 このコースで取り扱う主なテーマは次のとおりである。

1. 途上国における開発とは
2. 途上国の直面する問題
3. 経済成長の要因
4. 問題解決の方法
5. 持続可能な発展

【評価方法】 レポート、クラスでの発表・討論及び期末テストの成績を総合的に評価する。

【テキスト】 なし。随時、参考資料を紹介する。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
11605	官僚機構論	選	秋学期	2	2～4	深井 慈子
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 現代国家・社会における行政官僚の地位と仕組みとしての官僚機構の政治的役割を検討する。とくに、日本や欧米諸国における行政官庁・議会・利益集団間の、いわゆる「鉄の三角形」関係の役割を踏まえつつ、官僚機構について考察する。

【講義計画】

1. 科目の目的と内容、講義計画
2. 現代行政と執行の理論
3. 行政組織の理論
4. 行政管理の理論
5. 行政行動の理論
6. 財務行政の理論：予算理論の動向
7. 都市行政の理論と展開
8. 比較行政の理論
9. 公共政策と市場原理

10. 政策実施の理論
11. 政策評価の理論
12. 結び：官僚機構論と民主政治

【評価方法】 学期末の筆記試験

【テキスト】 宇都宮深志・新川達郎 『行政と執行の理論』 東海大学出版会、1995年

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11607	労働経済論	選	秋学期	2	2～4	村松 久良光
他の科目との関連	マクロ経済学 総合政策論Ⅰ（現代企業論） 総合政策論Ⅱ（人的資源論） 総合政策論Ⅲ（労働問題と政策） 日本経営論 経営労務論					他学科履修可

【講義内容】 仕事をする能力、とくに、企業などの組織で重要な判断を必要とする能力がいかに形成されるのかという視点から、労働市場および企業内の雇用システムのあり方を国際比較し、検討する。学歴・職業資格と労働市場の態様、企業内の雇用形態と報酬制度のあり方、生産職場における技能形成、知的熟練の理論、ホワイトカラーの昇進システム、日本の人材形成方式の海外通用性などのテーマについて事例を示しながら学ぶ。

【講義計画】 基本的には下記のテキストに沿って説明し、統計資料や事例を参考資料として追加して進める。
序説：さまざまな労働者グループ
1：知的熟練
2：大企業労働者のキャリア
3：大卒ホワイトカラーの人材開発
4：報酬pay－年功賃金か
5：日本方式の海外通用性

【評価方法】 授業への参加熱心度を加味し、筆記の定期試験の成績によって評価する。

【テキスト】 小池和男『仕事の経済学第2版』（東洋経済新報社、1999）
授業には必ずテキストを持参すること。
この講義ではテキストの約半分しか使わないが、後半部分については3年次秋学期に開く総合政策論Ⅲ（労働問題と政策）のテキストとして利用するから、無駄にはならない。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11611	政治行動論	選	春学期	2	2～4	野口 博史
他の科目との関連	共通教育科目「政治学」と総合政策学科科目「政治学概論」をすでに履修していることが望ましい。					他学科履修可

【副 題】 政治体系論の観点から

【講義内容】 政治の世界における議員、官僚、市民、利益集団などの行動の多角的な分析を通して、社会における人間行動の理解に努める。経済学や政治学などの分野での代表的な人間行動に関する理論や説明を概観し、それらの理論的・経験的妥当性を検証する。その際、個人レベル、集団レベル、社会レベルから人間行動を説明・理解すること、そして個々の人間行動のレベルから社会現象を説明・理解することの妥当性も精査する。

【講義計画】 第1週 授業の説明と序論
第2週 政治行動論・意義と背景
第3週 政治体系論・意義と背景
第4週 政治体系の構造
第5週 政治体系の水準と環境
第6週 政治体系と時間
第7週 理論構築方法
第8週 政治発展論1・政治的制度化論

第9週 政治発展論2・政治文化論
 第10週 連繫政治論1・対外政策と国内政策
 第11週 連繫政治論2・国際紛争と国内紛争
 第12週 まとめと展望

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 なし

【その他】 講義の主要内容と参考文献は毎週の授業で配布する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11613	公会計論	選	春学期	2	2～4	亀井 孝文
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 近年、先進諸国を中心として「小さな政府」実現をめぐる議論がさかに行われ、行政活動を効率的・効果的に行うという目標のために地方分権を含む行政改革がさかんに論じられている。財政制度の一環としての公会計において、世界の議論の流れは財務資源のみを対象とする現金主義会計から経済資源にまで対象を拡大した資源会計に移行しつつあり、わが国においてもこの問題はますます重要視されつつある。本講義では、納税者の観点の行政評価はもちろん行政職公務員のための教育も視野に入れている。

【講義計画】 近年、先進諸国を中心として「小さな政府」実現をめぐる議論がさかに行われ、行政活動を効率的・効果的に行うという目標のために地方分権を含む行政改革がさかんに論じられている。財政制度の一環としての公会計において、世界の議論の流れは財務資源のみを対象とする現金主義会計から経済資源にまで対象を拡大した資源会計に移行しつつあり、わが国においてもこの問題はますます重要視されつつある。本講義では、納税者の観点の行政評価はもちろん行政職公務員志望者のための教育も視野に入れている。

1. 私的部門の会計と公的部門の会計
2. 国・地方自治体の財政構造
3. 公会計制度の法的枠組
4. 公会計制度の概要 ①国の会計（一般会計の全体像と内容）
5. 公会計制度の概要 ②国の会計（特別会計の全体像と内容）
6. 公会計制度の概要 ③国の会計（特殊法人と財政投融资）
7. 公会計制度の概要 ④地方自治体の会計
8. 公会計制度改革の論理（行政運営の経済性、効率性、効果性）
9. 公会計制度改革論の動向①
10. 公会計制度改革論の動向②
11. 公会計制度改革論の動向③
12. 公会計制度改革論の動向④

【評価方法】 レポートおよび学期末の試験による。

【テキスト】 クラウス・リュエダー著／亀井孝文訳 『地方自治体会計の基礎概念』、中央経済社 2000年

【その他】 参考資料として新聞記事を機会あるごとに配布する。受講者自身も財政、地方自治、会計等に関する新聞記事を自らの関心で読み、日常的にそれらの知識を吸収するようにすることが望ましい。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11615	国際組織論	選	春学期	2	3・4	LJM Robyn J.
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 This course will focus mainly on the role of the UN in international conflict resolution

【講義内容】 人類史上最大かつ最も包括的・総合的な国際組織は、言うまでもなく国際連合（国連）である。この講義では、国連の目的、形成・発展過程、役割、問題点等を考察する。また欧州連合（EU）、東南アジア諸国連合（ASEAN）、アジア太平洋経済協力会議（APEC）等の地域的国際組織にも重点を置く。これら地域的国際組織は、冷戦後期から急速に発展し、冷戦後に飛躍的に重要性を高めてきている。とくに、アジアにおける最も重要な地域組織であるASEANとAPECを中心に、国際組織の歴史、目的、組織形態、運営、政策の実施過程、問題点およびその解決の展望を検討する。

- 【講義計画】
- 1 The League of Nations – Why did it fail?
 - 2 President Roosevelt's 'Five Policemen'
 - 3 The UN and the foundation of Israel
 - 4 The UN and the Korean War
 - 5 The UN and the 1956 Suez Crisis
 - 6 The Congo debacle
 - 7 The UN and the Cuban Missile Crisis
 - 8 The UN and the 1967 Middle East War
 - 9 Intractable conflicts – Kashmir, Cyprus, Israel
 - 10 The 1990-91 Gulf War and the UN
 - 11 EU and the Balkan conflicts
 - 12 ASEAN: conflict resolution?

【評価方法】 Examination will be by means of a series of short reports. Attendance is compulsory

【テキスト】 Stanley Meisler, *United Nations: The First Fifty Years* (New York: Atlantic Monthly Press, 1995)

【その他】 This course will be taught entirely in English

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11617	国際経営戦略論	選	春学期	2	3・4	KHONDAKER Rohman M.
他の科目との関連	国際貿易論、国際金融論、日本経営論、国際財務論、国際組織論					他学科履修可

【講義内容】 企業戦略論の領域の基本概念について解説したのちに、企業の競争戦略の分析や戦略の策定・実施について講義をする。研究者や実務家の文献を教材として、また、いくつかの具体例を探索し、国際的に経営戦略を展開している企業についての理解を深め、国際経営戦略を実際に分析する際の視点を理解できるようにする。

- 【講義計画】
1. 科目目的、内容、講義計画、教育方法などの説明
 2. 基礎概念の紹介
 3. 国際ビジネス環境の変化と企業経営の国際化
 - 4～9. 国際競争戦略の策定とその方法
 - － 海外進出
 - － 海外所有方式、リスクの分析
 - － クロス・ボーダーM&Aと企業連合
 - － 国際経営組織の開発
 - － 戦略の実行、実践と諸経営部門の役割
 - － 危機管理戦略
 10. 事例1：A国における世界自動車産業の競争戦略
 11. 事例2：B社のグローバル・ビジネス戦略
 12. 国際企業からグローバル企業への移行と経営戦略の展開
 13. 授業のまとめ

【評価方法】 出席（20%）、20分程度のミニテスト（20%）、および期末試験（60%）

【テキスト】

1. 山崎 清・竹田志郎（編）、テキストブック国際経営（新版）、有斐閣ブックス。
2. Richard Hodgetts and Fred Luthans, *International Management*, McGraw Hill International Edition（新版）。

テキストの購入については、最初の授業で指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11621	国際財務論	選	春学期	2	3・4	BREMER Marc
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 国際的視野から見た企業財務マネジメントと、国際財務市場について講義する。基本的な問題として、為替レートの変動にどう対応するかをとりあげる。具体的には、スポット為替レート、先渡し、先物、オプション、パリティ、利子率平価、ヘッジング、投機、海外直接投資、海外投資先の危険度、取引手段などを取り上げる。

【講義計画】 Cash and Spot Exchange Markets
Forwards, Futures and Options
Exchange Rate Determination
Hedging and Exposure

【評価方法】 Attendance/Class Participation 10%; Homework 20%; Midterm Exam 20%; and, Final Exam 50%

【テキスト】 David Eiteman, Arthur Stonehill, and Michael Moffett, *Multinational Business Finance*, Addison-Wesley

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11623	立法過程論	選	秋学期	2	3・4	松倉 耕作
他の科目との関連	法政策比較論、憲法					他学科履修可

【副 題】 法律や規則は、どのようにしてつくられるのか。

【講義内容】 我が国の立法過程における諸問題を具体的法律に則して検討する。総論面からは、日本の立法過程を、比較法的視点から特色づける。各論面では、いわゆる「サラ金二法」、「製造物責任法」などを例にとり、「法律のできるまで」の展開過程のその特色・課題などを講義する。法律制定後の判例による「法創造」を中心に、改正によらない法規範の定立についても言及する。

【評価方法】 テストの結果、授講態度などを総合評価する。

【テキスト】 プリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11625	経営財務論	選	春学期	2	3・4	BREMER Marc
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 企業財務の概念と方法について講義する。貨幣の時間的価値、リスクとリターン、株式、債務、税金、コーポレートガバナンス、資本コスト、資本予算策定と運転資本管理などを取り上げる。企業財務を理解するために、ビジネスの時事問題や現代企業経営の課題についても関連して述べる。

【講義計画】 Capital budgeting
Corporate governance
Cost of capital
Risk and return
Time value of money
Valuation of stocks and bonds

【評価方法】 Attendance/Class Participation 10%; Homework 20%; Midterm Exam 20%; and, Final Exam 50%

【テキスト】 Brealey, Richard A., Stewart C. Myers and Alan J. Marcus, *Fundamentals of Corporate Finance*, Irwin McGraw-Hill.

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11627	非営利組織論	選	春学期	2	3・4	POTTER David M.
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 非営利組織（NPO）は民主化・経済開発・人権などの分野で、先進国においても開発途上国においても重要な役割を演じるようになった。この講義では、日本と他国との比較を行いつつ、NPOやNGOの発展、政治や経済における役割、他の利益集団などの社会集団との比較、政府機関との関係、民主主義における役割について講義する。

【講義計画】 ①NPOとは何か
②先進国におけるNPO
③途上国におけるNPO
④旧社会主義国におけるNPO
⑤NPOの社会の中の役割は何であるべきか

【テキスト】 Lester Salamon and Helmut Anheier, ed. *Defining the Non-profit Sector*. 1997

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11631	地方自治論	選	秋学期	2	3・4	小 林 武
他の科目との関連	「憲法」・「人権政策論」を受講することが望ましい。					他学科履修可

【副 題】 「地方自治」政策のありようを考える。

【講義内容】 わが国で地方自治の制度と政策が本格的な展開をみるのは、戦後日本国憲法と地方自治法制定以来であり、なおその脆弱さが指摘されつづけてきたが、近年、国際的潮流を背景に、地方分権が大きな展開をみせている。また、企業などが、規制緩和を媒介にして地方政治とかかわる状況も顕著となり、地方自治は、公的・社会的政策実現に不可欠の場である性格を強めている。こうした視野をもって、講義では、地方自治について、国際的展開をふまえつつ、わが国におけるそのあり方を論じる。

【講義計画】 ほぼ次の順序で進める。
1 開講にあたって。「地方自治」とは何か
2 地方自治保障の意義と性質
3 地方自治体の構造と機能
4 地方自治の原則とわが国憲法
5 戦後地方自治法制の展開（1）
6 戦後地方自治法制の展開（2）
7 地方自治法制の現在——「分権」論
8 自治体の担う権限（「事務」）
9 条例の役割
10 自治体による憲法訴訟の提起
11 住民投票の意義と課題
12 地方自治論の課題。閉講のことば

【評価方法】 テスト（筆記試験）による。出席を加味することもある。

【テキスト】 小林 武著『地方自治の憲法学』（晃洋書房）

【そ の 他】 具体的な地方自治体の条例など施策・政策に注目する。そのため、進行中の問題を多くとりあげ、わか

りやすい講義にしたい。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11633	マーケティング論	選	夏期後半	2	3・4	中田 善啓
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 新しいマーケティングの分析

【講義内容】 企業が行っているマーケティング活動を政策的、グローバルな観点から理論的、実証的に説明する。マーケティングは市場を形成することによって、企業内、企業間、消費者間の取引の開始から終結までの活動をコントロールして、需要と供給のマッチングを達成することである。具体的にはチャネル、製品、価格、販売促進を中心に企業戦略と関連させて説明する。同時に、マーケティング・システムがどのように進化するかを明らかにする。

【講義計画】

1. マーケティングとは何か
2. 市場形成としてのマーケティング
3. マーケティング取引の特色
4. 仲介企業
5. ネットワーキング
6. 市場形成戦略

【評価方法】 筆記テストによる評価

【テキスト】 中田善啓 『新しいマーケティングの分析』 同文館（未刊行）
（刊行に間に合わなければ、中田善啓『マーケティングの進化』同文館 1998年、掲示するので注意すること）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11635	国際戦略論	選	秋学期	2	3・4	LIM Robyn J.
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 This course will examine an important issue in strategic studies : why weaker countries sometimes attack stronger ones.

【講義内容】 冷戦の終息によって、大規模な戦争の恐怖は遠のき、軍事戦略の重要性も相対的に低下したかに見える。しかし、旧ユーゴスラビアの民族紛争、インド・パキスタン間の核兵器開発競争、南シナ海や尖閣諸島の領有権争いなどに見られるように、国際紛争は依然として多発しているし、国家の安全保障が容易になったわけでもない。この講義は、国際政治の中心をなす、国家の安全保障および国際紛争の回避と処理、これを達成するための戦略の問題を扱う。

【講義計画】

- 1 Japan's attack on Russia, 1904
- 2 Japan's attack on Pearl Harbor, 1941
- 3 China's intervention in Korea, 1950
- 4 Pakistan's offensive in Kashmir, 1965
- 5 Egypt's offensive in the Sinai, 1973
- 6 The Argentine invasion of the Falklands, 1982
- 7 The nature of 'asymmetric conflict'
- 8 US - China conflict over Taiwan?
- 9 History of the Taiwan issue
- 10 Post - Cold War changes in the Asian power balance
- 11 Japan's equities in the Taiwan issue
- 12 Will China attack Taiwan?

【評価方法】	Examination will be by means of a series of short reports
【テキスト】	T.V. Paul, <i>Asymmetric Conflicts : War Initiation by Weaker Powers</i> . (Cambridge : Cambridge University Press, 1994)
【そ の 他】	This course will be taught entirely in English Attendance is compulsory.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11637	経済援助論	選	秋学期	2	3・4	POTTER David M.
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 1990年代に入り日本は先進国の中でも最大の政府開発援助供与国になっている。そしてその援助大国日本では、被援助国で援助がどのように使われるべきであるか、また援助に臨む際の理念は何であるべきかが検討課題になっている。この講義は政府開発援助（ODA）の主なテーマと問題点を取り上げて日本と他の主要援助国のODAを比較する。概念やケーススタディーを検討するために、戦後の援助レジームと国際機関の発展、援助と国際政治、外交と経済開発における援助の役割、供与国政府と被援助国政府におけるODAの概念、NGOやその他の民間団体の役割などについて考察する。

- 【講義計画】
- ① ODAとは何か
 - ② ODAの目的
 - ③ ODAと外交
 - ④ ODAと経済開発
 - ⑤ ODAと人権・民主化
 - ⑥ ODAとNGO
 - ⑦ ODAの危機？

【評価方法】 出席と書評と期末試験を総合して評価する。

【テキスト】 西垣昭、下村恭民 「開発援助の経済学」 新版

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
11641	監査論	選	春学期	2	3・4	亀井 孝文
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 「監査」をめぐる幅広い領域を視野に入れその社会的な役割を認識させる。最初に企業会計に関わる制度監査をその発展史および理論の観点から取り扱い、その際コンピュータによる技術化、企業を取り巻く経営環境の変化と監査の機能等の問題も重視する。さらに、これら会計監査と並んで、新しく制度化された地方自治体の外部監査の概要や企業の社会関連情報に関わる社会監査、とりわけこれからの重要課題となる地球環境保護と企業活動を取り扱う環境会計に関わる環境監査の問題にも言及する。

- 【講義計画】
1. 会計と監査との関係
 2. 会計制度・監査制度の概要と沿革
 3. 監査人の種類・資格、公認会計士と監査役
 4. 証券取引法監査 ― 公認会計士監査
 5. 商法監査制度 ― 監査役監査と会計監査人監査
 6. 監査基準の基本的性格と構成 ― 一般基準①
 7. 監査基準の基本的性格と構成 ― 一般基準②
 8. 監査の実施 ― 実施基準と監査実施準則
 9. 監査報告書の作成 ― 報告基準と監査報告準則
 10. 公会計と公監査制度
 11. 環境会計・環境監査
 12. 会計・監査の国際化と技術化

【評価方法】 学期末の筆記試験による

【テキスト】 原 征士著 『株式会社監査論』、白桃書房 2001年

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11643	経営労務論	選	秋学期	2	3・4	藤 原 道 夫
他の科目との関連	総合政策論Ⅰ(現代企業論)、総合政策論Ⅱ(人的資源論)、総合政策論Ⅱ(組織行動論)、総合政策論Ⅲ(労働問題と政策)、経営学、産業心理学、労働経済論					他学科履修可

【講義内容】 経営労務論の領域について概観した後、組織内における個人の位置を定義する「格付け」のシステムとしての人事制度の意味について考える。人事制度としての年功制度や職能資格制度について講義し、この人事制度と給与制度、教育・訓練制度、人事考課制度との関連について論じる。また、日本の企業が重要視している自由なローテーションを確保するための制度についても考える。

【講義計画】

1. 経営組織と人事労務管理
2. 技能系社員と事務・技術系社員
3. 現代日本の労働市場と人材
4. 人事制度～年功制度～
5. 人事制度～職能資格制度～
6. 他国との比較
7. 人材の流れ～採用、育成、配置～
8. 人材の処遇～給与、昇進昇格、評価～
9. 人材の動機付け
10. 自由なローテーション
11. 現代日本企業の課題
12. まとめ

【評価方法】 宿題20%、定期試験80%

【テキスト】 特に用いない。

【そ の 他】 参考書：津田真澄編著『人事労務管理』ミネルヴァ書房

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
11645	開発政治論	選	秋学期	2	3・4	POTTER David M.
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 アフリカ、ラテンアメリカ、アジア太平洋地域の開発過程の比較を講義の中心に据え、発展途上国の政治、経済開発の課題と問題点を考える。講義は四つの部分から成る。第一に、政治、経済開発の理論、そして発展途上国における政治と経済の関係をとり上げる。第二に、アフリカ、ラテンアメリカ、アジアの植民地時代前期の政治経済構造、植民地主義とその地域における社会に対するインパクト、そして独立への移行を考察する。第三に、独立後の発展途上国における政治制度、そして政治経済開発を分析する。第四に、戦後国際政治と政治経済開発の課題をとり上げる。

【講義計画】

- ①政治開発とは何か
- ②建国から第3世界へ
- ③政治開発の危機
- ④政治開発と経済開発
- ⑤民主化
- ⑥中央政府の眼で見る政治開発

【評価方法】 出席と書評と期末試験を総合して評価する。

【テキスト】 Monte Palmer, Political Development.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
11647	経営分析論	選	秋学期	2	3・4	亀井 孝文
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 伝統的な損益計算書および貸借対照表による分析と近年大きな関心の対象となっている現金収支計算書にかかわる新しい分析技法を取り扱い、これらを経営意思決定の観点と外部利害関係者の観点から考える。さらに、これら会計情報の他に社会関連および環境関連会計情報に注目して、企業の社会的責任ないし環境保護責任の遂行状況に関する分析にも言及する。さらに、会計情報をデータ処理することによって、企業を総合的に分析できる能力の修得を目指す。

【講義計画】

1. 経営分析とは何か ― 経営分析の意義と目的
2. 貸借対照表の分析 ①支払能力
3. 貸借対照表の分析 ②安全性
4. 貸借対照表の分析 ③資金運用力
5. 損益計算書の分析 ①資本利益率
6. 損益計算書の分析 ②売上高利益率
7. 損益分岐点分析と利益図表
8. パソコンによる経営分析実習①
9. パソコンによる経営分析実習②
10. パソコンによる経営分析実習③
11. パソコンによる経営分析実習④
12. パソコンによる経営分析実習⑤

【評価方法】 パソコン実習のレポートおよび学期末の筆記試験による

【テキスト】 倉田三郎・藤永 弘・石崎忠司・坂下紀彦著『入門経営分析（改訂版）』、同文館 2001年